

# もくじ

もくじ .....	1
はじめに .....	5
やりたいことを探そう！ .....	10

## 1 章 本体の機能 15

1 各部の名前 .....	16
① 前面図 .....	16
② 背面図 .....	18
③ 裏面図 .....	19
2 システムインジケータ .....	21
3 キーボード .....	22
① キーボード図 .....	22
② キーシフトインジケータの切り替え .....	24
③ キーを使った便利な機能 .....	25
4 タッチパッドとマウス .....	29
① タッチパッドを設定するには .....	29
② タッピング機能 .....	31
③ タッチパッドを無効／有効にするには .....	31
④ マウスの設定 .....	32
⑤ PadTouch 機能を使う .....	34
5 ディスプレイ .....	37
① ディスプレイの設定 .....	37
② 時間帯で壁紙を変える .....	39
6 ハードディスクドライブ .....	45
7 サウンド機能 .....	46
① スピーカの音量を調整する .....	46
② 音楽／音声の録音レベルを調整する .....	47
8 ドライブ .....	48
① 使用できるメディアと対応するアプリケーション .....	49
② 使用できる CD .....	51
③ 使用できる DVD .....	53
④ DVD-RAM を使うときは .....	55

9	SDメモ리카ード	60
	① SDメモ리카ードについて	60
	② SDメモ리카ードのセットと取り出し	61
	③ SDメモ리카ードを使う前に	62
10	ワンタッチボタン	66
11	セキュリティロック	68

## 2章 音楽と映像

69

1	音楽CDを聴く	70
	① 音楽CDを再生する	70
2	音楽ファイルを聴く	74
	① BeatJamでファイルを再生する	74
	② Windows Media Playerでファイルを再生する	77
3	オリジナル音楽CDを作る	81
	① Drag'n Drop CD + DVDを使うために	81
	② Drag'n Drop CD + DVDを使う	83
	③ Drag'n Drop CD + DVDを終了する	85
4	DVD-Videoを観る	86
	① InterVideo WinDVDを起動する	87
	② InterVideo WinDVDを使う	88
5	デジタルカメラの写真を編集/整理する	92
6	オリジナルDVDを作る	95
	① 映像データをパソコンに取り込む	95
	② 映像データの編集について	96
	③ 映像データをDVDに書き込む	97

## 3章 通信機能

101

1	LANへ接続する	102
	① ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）	102
	② ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）	104
	③ ネットワーク設定に便利な機能	115

2 Bluetooth 機能を使う .....	119
① Bluetooth とは .....	119
② Bluetooth 機能を使って通信する .....	122
3 内蔵モデムについて .....	130
① 海外でインターネットに接続する .....	130

## 4章 周辺機器の接続

133

1 周辺機器について .....	134
① 周辺機器を使う前に .....	135
2 PC カードを接続する .....	136
① PC カードを使う前に .....	136
② PC カードを使う .....	137
3 USB 対応機器を接続する .....	139
4 テレビを接続する .....	141
5 外部ディスプレイを接続する .....	147
6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する .....	148
7 その他の機器を接続する .....	150
① マイクロホン .....	150
② ヘッドホン .....	151
8 メモリを増設する .....	153

## 5章 バッテリ駆動

159

1 バッテリについて .....	160
① バッテリ充電量を確認する .....	161
② バッテリを充電する .....	164
③ バッテリパックを交換する .....	167
2 省電力の設定をする .....	169
① 省電力ユーティリティ .....	169
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る .....	175
① スタンバイ .....	175
② 休止状態 .....	177
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する .....	178

## 6章 アプリケーションについて 181

- 1 アプリケーションを追加（インストール）する ..... 182
- 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する ..... 183

## 7章 システム環境の変更 185

- 1 システム環境の変更とは ..... 186
- 2 東芝HWセットアップを使う ..... 187
- 3 パスワードセキュリティ ..... 194
  - ① ユーザパスワード ..... 194
  - ② ユーザパスワードの入力 ..... 196
  - ③ スーパーバイザパスワード ..... 197
- 4 BIOS セットアップを使う ..... 198
  - ① 起動と終了 ..... 198
  - ② 画面と基本操作 ..... 200
  - ③ 設定項目 ..... 202

## 付録 217








- 1 本製品の仕様 ..... 218
- 2 技術基準適合について ..... 226
- 3 無線 LAN について ..... 240
- 4 Bluetooth について ..... 249
- 総合さくいん ..... 255

# はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

## 記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っているると便利な内容を示します。
 役立つ 操作集	知っているると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

\*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

\*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

\*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

## 用語について

本書では、次のように定義します。

**システム** 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

**アプリケーションまたはアプリケーションソフト**  
アプリケーションソフトウェアを示します。

**Windows XP** Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

**MS-IME** Microsoft® IME 2003 / Microsoft® ナチュラル インプットを示します。

**Pentium M モデル**  
インテル® Pentium® M プロセッサ搭載モデルを示します。

**Pentium III モデル**  
モバイル インテル® Pentium® III プロセッサ搭載モデルを示します。

**サイバーサポート**  
CyberSupport for TOSHIBA を示します。

**ドライブ** DVD マルチドライブ / マルチドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

 参照 詳細について「1 章 8 ドライブ」

**DVD マルチドライブモデル**  
DVD マルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

**マルチドライブモデル**  
マルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

**Bluetooth モデル**  
Bluetooth 機能が内蔵されているモデルを示します。

## 記載について

- ・ 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「\*\*\*モデルのみ」と注記します。
- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD / DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

## Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media、Office ロゴ、OneNote、Outlook は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Intel、インテル、Centrino、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス、マイペンシルは、株式会社ジャストシステムの商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス/R.2、マイペンシル/R.2 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス/R.2、マイペンシル/R.2にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ CDDDB は Gracenote の登録商標です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ LaLaVoice、ConfigFree は (株) 東芝の登録商標です。
- ・ 駅前探険倶楽部は株式会社駅前探険倶楽部の登録商標です。
- ・ ekitanExpress Online の商標は出願中です。
- ・ The 翻訳、The 翻訳インターネットは東芝ソリューション株式会社の商標です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴは Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag'n Drop はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ InterVideo、WinDVD、WinDVD Creator は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- ・ 駅すぱあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。  
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。  
©2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

## インテル Centrino モバイル・テクノロジーについて

次の3つのテクノロジーを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

- ・ インテル Pentium M プロセッサ
- ・ インテル 855 チップセット ファミリ
- ・ インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

## プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ AC アダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合  
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 35°C (高所の場合 25°C) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。



## 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

## リリース情報について


「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

## お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

 参照▶ 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

# やいたいことを探そう！



## 探しかた

- ・ ホームページを見たい  
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX  
↳ アプリケーション名      ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



## 通信を楽しむ

- ・ プロバイダと契約したい  
「簡単インターネット」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを見たい  
「Internet Explorer」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを英語／日本語に翻訳したい  
「The翻訳 インターネット」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ 海外でインターネットに接続したい  
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.130
- ・ ネットワークの診断や切り替えをしたい  
「ConfigFree」 ⇒ P.115



## メールを使う

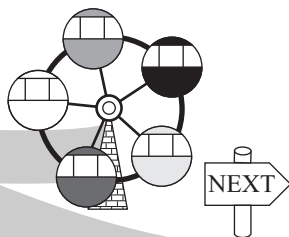
- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい  
「Microsoft Office Outlook」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ メールをしたい  
「Microsoft Office Outlook」 「Outlook Express」  
⇒ 『基本をマスター 3章』





## 音楽を楽しむ

- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい  
「Windows Media Player」⇒P.70
- ・オリジナル音楽CDを作りたい  
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒P.81
- ・音楽CDやファイルを再生、管理したい  
「BeatJam」⇒P.70



## 音声

- ・パソコンを音声で操作したい  
パソコンに文章を読み上げさせたい  
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》



## 画像/映像を楽しむ

- ・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい  
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」⇒P.92
- ・DVDを楽しみたい  
「InterVideo WinDVD」⇒P.86
- ・映像を取り込んで編集し、DVDを作りたい  
「WinDVD Creator 2 Platinum」\*1 ⇒P.95

\* 1 DVDへの書き込みはDVDマルチドライブモデルのみ



## 文書/表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい  
「Microsoft Office Word」⇒《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい  
「Microsoft Office Excel」⇒《サイバーサポート》



## 便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい  
「Adobe Reader」⇒《サイバーサポート》
- ・地図で場所を調べたい  
「プロアトラスW2 for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい  
「駅すばあと」「ekitanExpress Online」⇒《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい  
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》
- ・ホームページを作りたい  
「ホームページミックス/R.2」⇒《サイバーサポート》
- ・日記をつけたい  
「マイペンシル/R.2」⇒《サイバーサポート》
- ・メモを有効活用したい  
「Microsoft Office OneNote 2003」⇒《サイバーサポート》





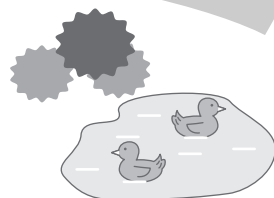
## パソコンを守る

- ・ ウイルスのチェックや駆除をしたい  
「Norton Internet Security」⇒「困ったときは 2章」
- ・ CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい  
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒「困ったときは 2章」



## パソコンの設定

- ・ パソコンの状態をチェックしたい  
パソコンの基本情報を知りたい  
「東芝PC 診断ツール」⇒「困ったときは1章」
- ・ ハードウェアの設定を変えたい  
「東芝 HW セットアップ」⇒P.187
- ・ ワンタッチボタンの設定を変えたい  
「東芝コントロール」⇒P.66
- ・ キー操作でアプリケーションを起動したい  
「Fn-esse」⇒《サイバーサポート》
- ・ バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい  
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.169
- ・ アイコンやメニューを大きくしたい  
「東芝Smooth View」⇒《サイバーサポート》
- ・ 壁紙の設定をしたい  
「くるくる壁紙チェンジャー」⇒P.39





# 1 章

## 本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

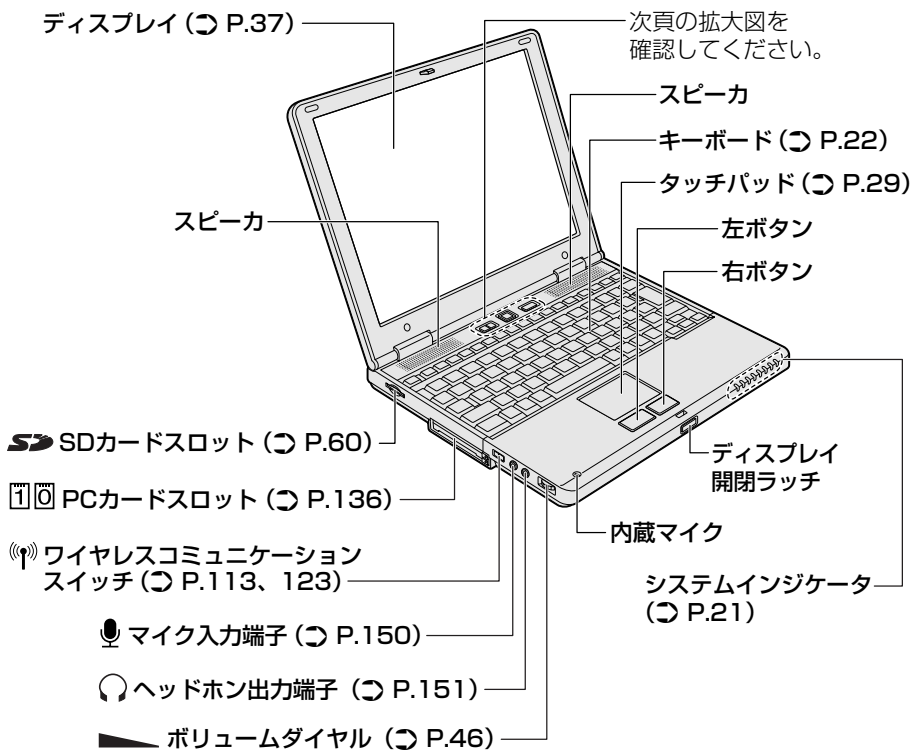
---

1	各部の名前	16
2	システムインジケータ	21
3	キーボード	22
4	タッチパッドとマウス	29
5	ディスプレイ	37
6	ハードディスクドライブ	45
7	サウンド機能	46
8	ドライブ	48
9	SDメモ리카ード	60
10	ワンタッチボタン	66
11	セキュリティロック	68

# 1 各部の名前

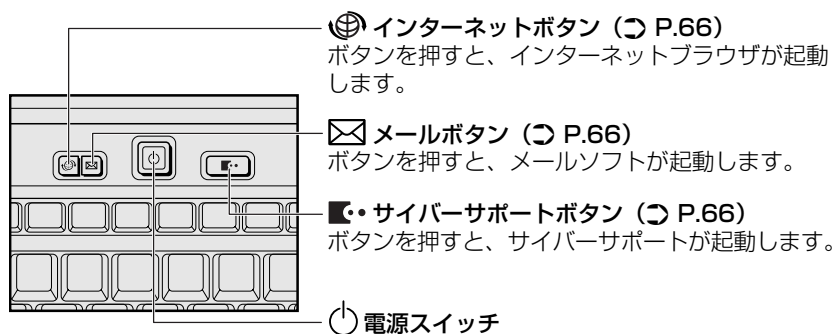
ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。  
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページを確認してください。

## 1 前面図





## 【拡大図】



## 【電源スイッチについて】

電源スイッチのランプは、ディスプレイを開けると点灯し、ディスプレイを閉じると消灯します。

また次の場合にもランプが消灯します。

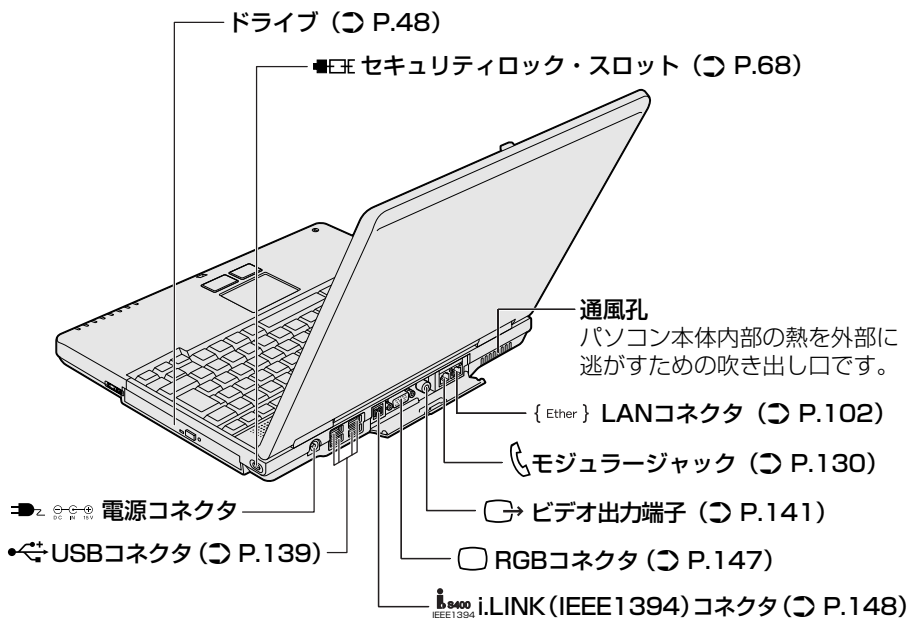
- ・電源を切ったあと1分経過したとき
- ・ディスプレイを開けてから電源スイッチを押さずに1分経過したとき

電源スイッチのランプは、パソコンの状態によって光りかたが変化します。

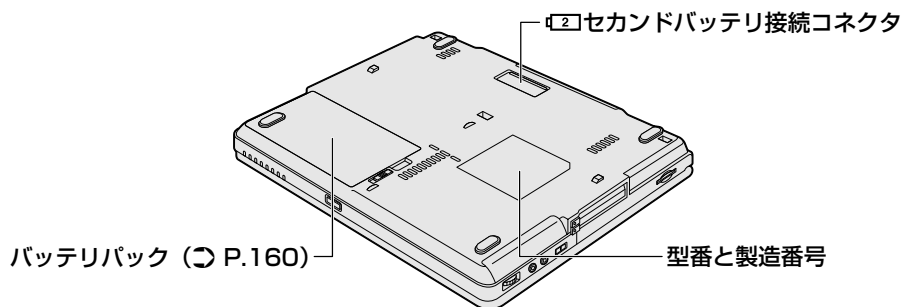
さらに光りかたの設定を変更することができます。

変更方法は「7章 2-2- [ボタン設定] タブ」を確認してください。

## 2 背面図



## 3 裏面図

**警告**

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や (+) (-) の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず『まずはこれから』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

**注意**

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

## 【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は、100Vです。

必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

\*取得規格は、電気用品安全法です。

## 【ACアダプタの仕様】

入力：AC100-240V～、1.3A-0.7A、50-60Hz

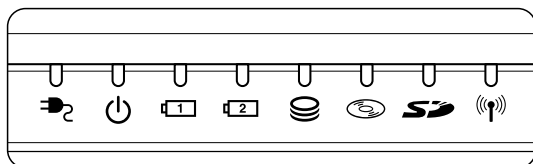
出力：DC15V 4A

## パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。  
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。  
温度 5～35℃、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。  
直射日光の当たる場所 / 非常に高温または低温になる場所 / 急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため） / 強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く） / ホコリの多い場所 / 振動の激しい場所 / 薬品の充満している場所 / 薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

## 2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



### 【システムインジケータ】

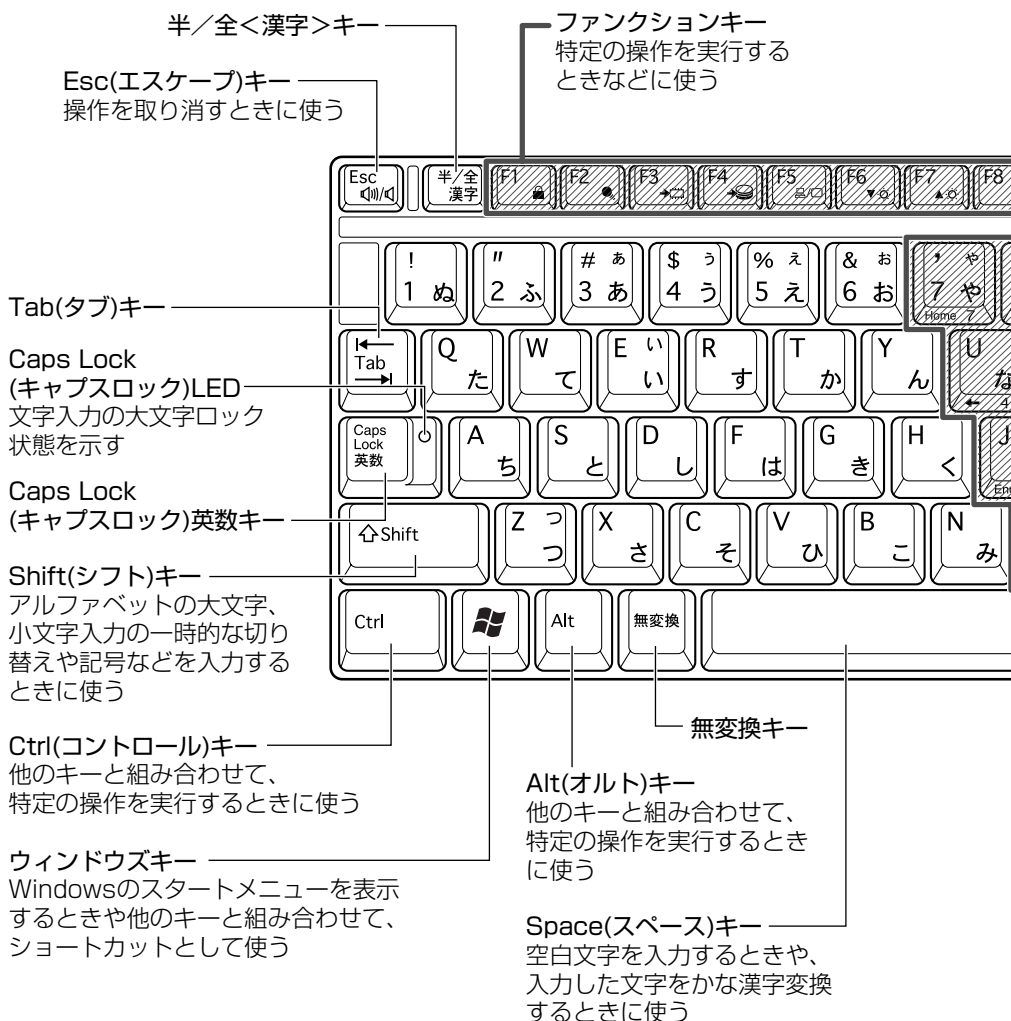
	DC IN LED	電源コードの接続  参照  『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態  参照  『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリーの状態  参照  P.161
	セカンドバッテリーLED	セカンドバッテリーの状態 *1
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている 参照  P.45
	CD-ROM LED	ドライブにアクセスしている  参照  P.48
	SD Card LED	SDカードスロットにアクセスしている 参照  P.60
	ワイヤレス コミュニケーションLED	無線通信機能の状態  参照  P.113、123

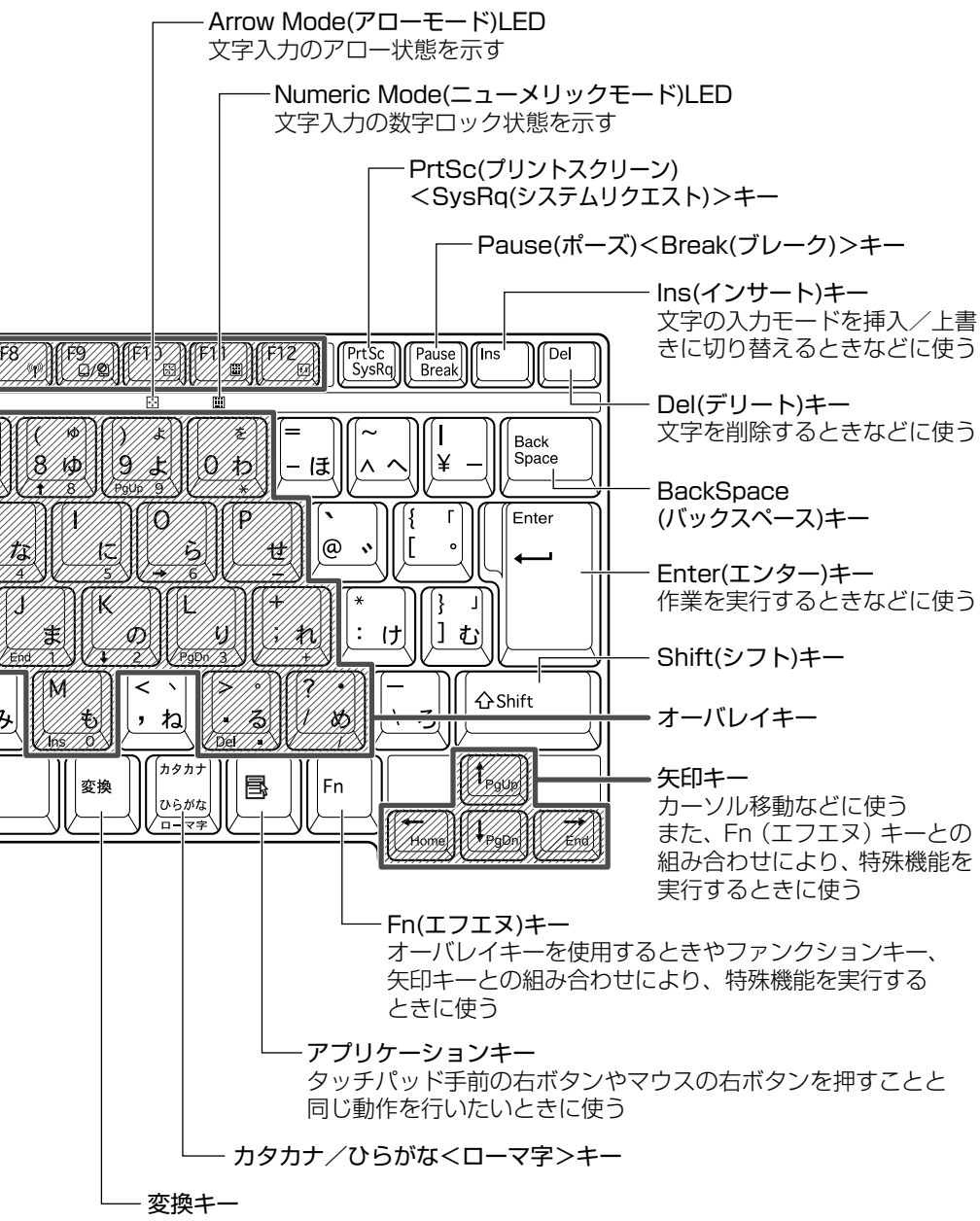
\* 1 本製品には、セカンドバッテリーパック（別売り）を取り付けることができます。セカンドバッテリーパックの詳細については、『セカンドバッテリーパックに付属の取扱説明書』を確認してください。

# 3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

## 1 キーボード図





## 2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。その場合、他の2つは解除して消灯してください。

### 【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバーレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバーレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押します。



### 3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

#### 【Fnキーを使った特殊機能キー】











キー	内容
(Fn)+(Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度(Fn)+(Esc)キーを押します。
(Fn)+(F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面に Windows のログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時によろこそ画面に戻る] をチェック）しておくこと、セキュリティを強化できます。
(Fn)+(F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn)+(F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに省電力モードが切り替わります。
(Fn)+(F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	(Fn)+(F3)キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます*1。
(Fn)+(F4) 〈休止状態の実行〉	(Fn)+(F4)キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると休止状態が実行されます*1。

キー	内容
(Fn) + (F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 ▶ 詳細について「4章 4 テレビを接続する」
(Fn) + (F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます*2。
(Fn) + (F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます*2。
(Fn) + (F8) 〈無線通信機能を切り替える〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。 * Pentium Mモデルのみ
(Fn) + (F9) 〈タッチパッドオン/オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度(Fn) + (F9)キーを押します。 ▶ 「本章 4-3 タッチパッドを無効/有効にするには」
(Fn) + (F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます (アロー状態)。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F10)キーを押します。
(Fn) + (F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます (数字ロック状態)。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F11)キーを押します。 アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては異なる場合があります。
(Fn) + (F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F12)キーを押します。
(Fn) + (↑) 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↑)キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn) + (↓) 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↓)キーを押すと、次のページに移動できます。

キー	内容
<b>(Fn) + (←)</b> 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、 <b>(Fn)</b> キーを押したまま、 <b>(←)</b> キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
<b>(Fn) + (→)</b> 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、 <b>(Fn)</b> キーを押したまま、 <b>(→)</b> キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
<b>(Fn) + (①)*3</b> 〈縮小〉	デスクトップや一般的なアプリケーションで、 <b>(Fn)</b> キーを押したまま、 <b>(①)</b> キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
<b>(Fn) + (②)*3</b> 〈拡大〉	デスクトップや一般的なアプリケーションで、 <b>(Fn)</b> キーを押したまま、 <b>(②)</b> キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

- \* 1 表示される画面で [今後、このメッセージを表示しない] をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。
- \* 2 液晶ディスプレイの点灯直後は、約 18 秒間、輝度の変更はできません。その間、液晶ディスプレイの点灯を安定させるため、自動的に最高輝度となります。
- \* 3 「Fn-esse」を起動している場合、本機能は正しく動作しません。「Fn-esse」を終了してから使用してください。

### 【キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
 + (R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
 + (M)	すべての画面を最小化する
(Shift) +  + (M)	 + (M)キーで最小化したすべての画面を元に戻す
 + (F1)	『ヘルプとサポート』を起動する
 + (E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
 + (F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl) +  + (F)	他のコンピュータを検索する
 + (Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
 + (Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

## 【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt) + (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

## キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。


# 4 タッチパッドとマウス


タッチパッドとマウスを、使いやすく設定できます。

## 1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ] で行います。

### 1 [マウスのプロパティ] の起動方法

1 [コントロールパネル] を開き、[  プリンタとその他のハードウェア ] をクリックする

2 [  マウス ] をクリックする

[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



画面は、マウス接続時の表示例です。

3 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

### 2 タッチパッドの感度を調整する

タッチパッドから操作するとき、反応が鋭すぎて、ちょっと触っただけでポインタが大きく動いてしまったり、指をはなしたときに別の場所へ動いてしまったりすることがあります。指の動きにあわせてポインタを動かすために、タッチパッドの感度を調整することができます。

次の方法で設定してください。

1 [マウスのプロパティ] を起動する

- 2 [デバイス設定] タブで [設定] ボタンをクリックする  
[デバイス設定] 画面が表示されます。



- 3 [アイテムの選択] 欄で [感度] をダブルクリックし①、表示された項目から [タッチ感度] をクリックする②



- 4 [タッチ感度] でスライダーバーを動かして、タッチ感度を設定する



タッチパッドを軽く触っただけで反応させたい場合は、スライダーバーを「軽く」の方へ動かしてください。逆にある程度強く触らなければ反応しないようにしたい場合は、スライダーバーを「強く」の方向に動かしてください。

- 5 [OK] ボタンをクリックする  
[マウスのプロパティ] 画面に戻ります。

- 6 [OK] ボタンをクリックする

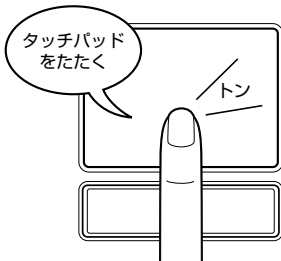
## 2) タッピング機能

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。  
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

### 1 タッピングの方法

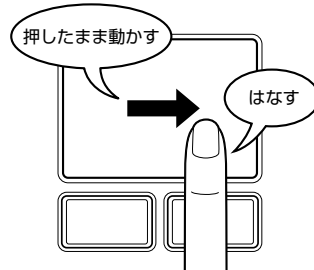
#### 【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



#### 【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



参照 関連情報は  
『基本をマスター 1章 1-① タッチパッド』

## 3) タッチパッドを無効/有効にするには

[タッチパッド ON/OFF] タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。



## 【タッチパッドのON/OFF】

[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

タッチパッドの無効/有効は、(Fn)+(F9)キーでも切り替えることができます。

(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

## 4 マウスの設定

マウスのボタンやホイールなどの設定もできます。

本製品には、USB マウスが同梱されています。接続方法は「4章 3 USB 対応機器を接続する」を参照してください。

マウスの使用方法は『基本をマスター 1章 1-② マウス』を参照してください。

### 1 マウスの設定を変更する

[ボタン] タブで設定します。



ボタンの構成	マウスの右ボタンと左ボタンの役割を入れ換えます。
ダブルクリックの速度	スライダーバーを動かして、ダブルクリックするときの速度を調整します。
クリックロック	マウスのボタンを押したままにしなくても、ドラッグできるようにします。



## 2 ホイールの設定を変更する

[ホイール] タブで設定します。



マウスのホイールを1目盛り動かした際に、どれだけ画面をスクロールさせるかを設定します。

1 度に次の行数スクロールする	設定した数字の行数分だけスクロールします。
1 画面ずつスクロールする	チェック (☑) すると、1 画面ずつスクロールします。

### 役立つ 操作集

#### ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速度などを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。




### ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を起動後、画面右上の **?** をクリックする  
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

## 5 PadTouch 機能を使う

パッドタッチ

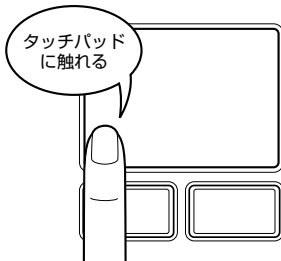
「PadTouch」を使用すると、アプリケーションなどを簡単に起動することができます。

「PadTouch」は、購入時の状態ではパソコンに電源を入れると自動的に起動し、通知領域にアイコン（)が表示されます。

### 1 使用方法

次のように操作して、PadTouch を使用してください。

#### 1 タッチパッドのコーナーに数秒間触わる



このとき、指を動かさずに触ったままにしてください。

PadTouch の画面が表示されます。

表示される画面のことを、PadTouch では「テーブル」と呼びます。丸い形状のものは、テーブル上のどこが操作対象になるのかを示すポインタです。タッチパッドに触ったまま指をすべらせると、テーブル上をポインタが動きます。

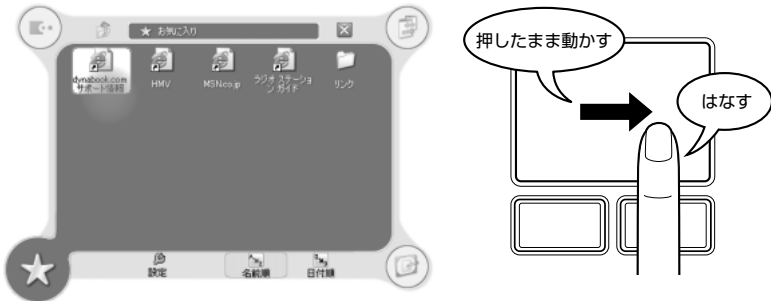


このテーブルは、タッチパッドの左下コーナーに触れた場合に起動する「お気に入り」です。

起動するテーブルは、タッチパッドのどこに触れるかによって違います。購入時は、次のように設定されています。

右上コーナーの場合	[ウィンドウ切り替え] テーブル
右下コーナーの場合	[デスクトップ] テーブル
左上コーナーの場合	[dynabookオリジナルツール] テーブル
左下コーナーの場合	[お気に入り] テーブル

## 2 ポインタを目的のアイコンにあわせ、タッチパッドから手をはなす



ポインタをあわせたアイコンのプログラムなどが起動します。



手をはなしてプログラムなどを起動させた場合、それまで表示されていたテーブルは自動的に消えます。

何も選択しないでテーブルを消したい場合は、「閉じる」アイコン (X) にポインタをあわせてタッチパッドから手をはなしてください。


## 2 設定方法

PadTouch では、起動するプログラムや画面デザインなどを設定することができます。

次のように操作して、設定画面を起動してください。

### 1 タッチパッドのコーナーに触れてテーブルを表示し、[設定] にカーソルをあわせて手をはなす

PadTouch の設定画面が表示されます。


設定の詳細については、ヘルプを参照してください。ヘルプを起動するには、通知領域の [PadTouch] アイコン (  ) を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックします。

## 3 PadTouchを無効にする方法

PadTouch を無効にするには、次のように操作してください。

### 1 通知領域の [PadTouch] アイコン ( ) を右クリックし、表示されたメニューから [無効にする] をクリックする

PadTouch が使用できなくなります。

再び PadTouch を使用したい場合は、通知領域の [PadTouch] アイコン (  ) を右クリックし、表示されたメニューから [有効にする] をクリックしてください。

# 5 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

▶ 参照 外部ディスプレイの接続について  
「4 章 5 外部ディスプレイを接続する」

## 表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

## 1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

### 1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

#### 【 Pentium M モデルの場合 】

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	
1600 × 1200 ドット	
1400 × 1050 ドット	
1280 × 1024 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

## 【 Pentium III モデルの場合 】

1600 × 1200 ドット	65,536 色
1280 × 1024 ドット	65,536 色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色



1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

### メモ

1,677 万色はディザリング表示です。  
ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

## 2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きくなり、または小さく表示されます。

- 1 **【コントロールパネル】** を開き、[  **デスクトップの表示とテーマ** ] をクリック → [  **画面** ] をクリックする  
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 **【設定】** タブの **【画面の解像度】** で、解像度を変更する




- 3 **【OK】** ボタンをクリックする

## 2 時間帯で壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使って、デスクトップの壁紙を時間帯に応じて自動的に切り替えられます。また記念日や予定のある日には、イベントアイコンをデスクトップに表示できます。

### 1 壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使用するには、あらかじめ次の設定を行ってください。

- 1 【コントロールパネル】を開き、[  デスクトップの表示とテーマ ] をクリックする
- 2 【デスクトップの背景を変更する】をクリックする  
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 【デスクトップ】 タブで【参照】 ボタンをクリックする
- 4 【マイドキュメント】 をクリックする
- 5 【dynabookFun 壁紙】 をクリックし①、【開く】 ボタンをクリックする②



- 6 【画面のプロパティ】 画面で【OK】 ボタンをクリックする

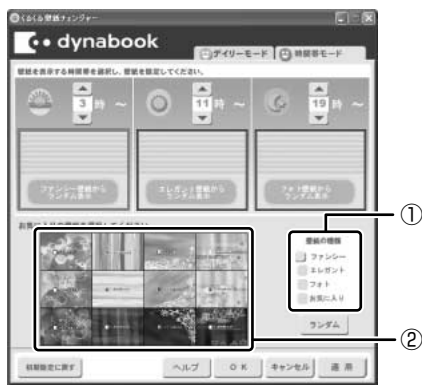
【用意されている壁紙から選択する】

- 1 【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【くるくる壁紙チェンジャー】 をクリックする

## 2 [時間帯モード] タブで設定する時間帯を選択する



## 3 [壁紙の種類] で壁紙の種類を選択し①、[お気に入りの壁紙を選択してください] から壁紙を選択する②



①の [壁紙の種類] で [ファンシー] [エレガント] [フォト] をクリックすると、②の [お気に入りの壁紙を選択してください] に表示される壁紙のサンプルが変わります。

[ランダム] ボタンをクリックすると、[お気に入りの壁紙を選択してください] に表示される壁紙のサンプルの中からランダムに切り替えます。

選択された画像は上の赤い枠内に表示されます。

▶ **参照** [お気に入り] をクリックした場合  
「本項 - お気に入りの画像を壁紙に設定する」

手順2と3を繰り返し、それぞれの時間帯の時間の設定と壁紙の選択をしてください。



## 4 [OK] ボタンをクリックする

## 【お気に入りの画像を壁紙に設定する】

- 1 お気に入りの画像ファイルを [マイ ピクチャ] フォルダの [くるくるお気に入り] フォルダにコピーする

壁紙として選択できるファイル形式は、JPEG、GIF、BMP です。

- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [くるくる壁紙チェンジャー] をクリックする
- 3 [時間帯モード] タブで設定する時間帯を選択する
- 4 [壁紙の種類] で [お気に入り] をクリックする



## 5 ◀ ▶ ボタンで画像を選択する①



① 選択された画像は選択した時間帯の赤い枠内に表示されます。

## 6 [OK] ボタンをクリックする

## 2 イベントアイコンを表示する

誕生日や旅行の予定など、スケジュール帳のようにその日のイベントがわかるアイコンを表示することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [くるくる壁紙チェンジャー] をクリックする
- 2 [デイリーモード] タブで [壁紙設定カレンダー] から年月を選択し  
①、日付を選択する②



## 3 イベントアイコンを選択し、メッセージを入力する

メッセージは全角で10文字まで入力できます。

イベントアイコンを表示する日の壁紙を設定する場合は手順4へ進んでください。

[時間帯モード] タブで設定した壁紙と同じ壁紙にイベントアイコンを表示する場合は手順5へ進んでください。

- 4 【壁紙の種類】で壁紙の種類を選択し①、◀ ▶ ボタンで壁紙を選択する②



選択した壁紙のサイズが画面サイズより小さい場合は、[表示位置] で [並べて表示] を選択すると同じ画像を並べて表示することができます。

- 5 【OK】 ボタンをクリックする

#### メモ

- 設定できるイベント数は1日1件、最大50日です。
- 手順4で [並べて表示] を選択した場合、[お気に入りの壁紙を選択してください] では4分割に表示されますが、実際の表示とは異なります。

### 3 初期設定に戻す

それぞれのタブの [初期設定に戻す] ボタンを使うと、購入時の設定に戻ります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [くるくる壁紙チェンジャー] をクリックする
- 2 初期設定に戻すタブを選択し、[初期設定に戻す] ボタンをクリックする
- 3 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

## メモ

「マイドキュメント」フォルダのファイル「dynabookFun 壁紙.html」は削除しないでください。削除すると、次に起動したときに壁紙やイベントアイコンのすべての設定が無効になります。誤ってファイルを削除したときは、「くるくる壁紙チェンジャー」を起動して [OK] ボタンをクリックすると「dynabookFun 壁紙.html」が作成され、設定が有効になります。

## ヘルプの起動方法

- 1 「くるくる壁紙チェンジャー」を起動後、[ヘルプ] ボタンをクリックする

## 液晶ディスプレイの取り扱い

### 画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。  
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。  
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。


### バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。


# 6 ハードディスクドライブ

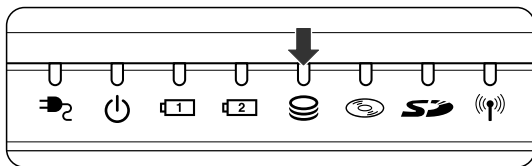
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。  
PCカードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。


## お願い 操作にあたって

- Disk  LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD／DVDなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVDなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

## ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LEDが点灯します。



PCカードタイプやi.LINK（IEEE1394）対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk  LEDは点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

# 7 サウンド機能

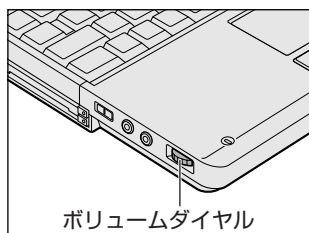
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

## 1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調整できます。

### 1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



### 2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

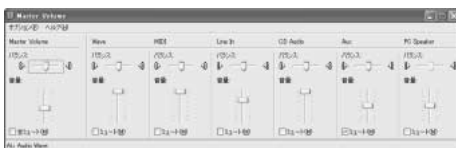
2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするるとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。

● Pentium M モデル



● Pentium III モデル



詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

## 【音楽／音声を再生するとき】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

Volume Control または Master Volume	全体の音量を調整する
Wave	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player の場合)、DVD-Video など
CD Player または CD Audio	音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

## 2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

## 1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] で表示項目を確認する  
[Microphone] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [Recording Control] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする  
[Microphone] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する  
同時に2つのデバイスを選択することはできません。  
録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの [Wave] 対応の場合、録音するときも [Wave] の音量により影響を受けます。

# 8 ドライブ

本製品には、DVD マルチドライブまたはマルチドライブが 1 台内蔵されています。内蔵されているドライブは、購入したモデルによって異なります。

- DVD マルチドライブ  
DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。
- マルチドライブ  
CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ちます。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

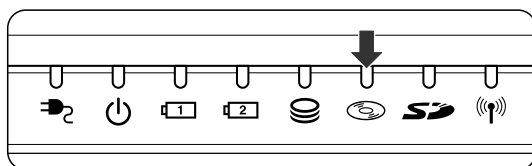
CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

## お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

## ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、CD-ROM LED が点灯します。





## 1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

使用できるメディアと、本製品に付属のアプリケーションで書き込みできるメディアはモデルによって異なります。

### DVD マルチドライブモデル

#### 【使用できるメディア】

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○*1	○*1	○*1	×	×
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能*2	1回	繰り返し書換可能*2	繰り返し書換可能*2	×	×

\* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

\* 2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

#### 【アプリケーションとメディア】

「Drag'n Drop CD+DVD」「WinDVD Creator 2 Platinum」は本製品に付属のアプリケーションです。

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM *3
Drag'n Drop CD+DVD	○	○	○*2	○*2	×
WinDVD Creator 2 Platinum(DVD-Video*1)	×	×	○	○	○*4
WinDVD Creator 2 Platinum(DVD-VR*1)	×	×	×	×	○

\* 1 映像を書き込むときの記録形式です。表に記載されている形式でのみ書き込みできます。

DVD-Video 形式に準拠した映像は、他の機器との互換性に優れており、DVD-RW、DVD-R に対応した DVD プレーヤ、パソコン、ゲーム機など色々な環境で再生できます（一部の機器では再生できない場合があります）。

DVD-VR 形式に準拠した映像は、豊富な編集機能を使ってオリジナル DVD を作成することができます。再生や編集には、DVD-RAM 機能が搭載され、DVD-VR 形式に対応した DVD レコーダなどが必要になります（一部の機器では再生／編集できない場合があります）。

- \* 2 DVD-Video、DVD-Audio の作成や音楽情報の書き込みはできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。
- \* 3 パソコンで作成した文書データなどのファイルを DVD-RAM に書き込む場合は、[マイコンピュータ] で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーしてください。

**参照** ファイルやフォルダのコピー

『基本をマスター 1 章 5-② ファイルやフォルダをコピーする』

なお、新品の DVD-RAM は、使用前にフォーマットが必要です。

**参照** フォーマット「本節 ④ DVD-RAM を使うときは」

- \* 4 パソコンなど、DVD-RAM が読める環境でのみ可能となります。

## マルチドライブモデル

### 【使用できるメディア】

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○*1	○*1	○*1	×	×
書き込み回数	1 回	繰り返し書換可能*2	×	×	×	×	×

\* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

\* 2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

### 【アプリケーションとメディア】

CD-R、CD-RW には本製品に付属の「Drag'n Drop CD + DVD」で書き込みができます。

## 2 使用できる CD

読み出しできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD  
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD  
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM  
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのもので使用できます。
- CD エクストラ  
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は、次の種類です。

- CD-R  
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

- DVD マルチドライブモデル  
CD-R : 最大 16 倍速  
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。  
マルチスピード CD-RW メディア : 最大 4 倍速  
High-Speed CD-RW メディア : 最大 8 倍速  
Ultra Speed CD-RW メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。
- マルチドライブモデル  
CD-R : 最大 24 倍速  
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。  
マルチスピード CD-RW メディア : 最大 4 倍速  
High-Speed CD-RW メディア : 最大 10 倍速  
Ultra Speed CD-RW メディア : 最大 24 倍速

## お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。  
CD-RW（マルチスピード、High-Speed）  
：三菱化学（株）、（株）リコー  
CD-RW（Ultra Speed）\*マルチドライブモデルのみ  
：三菱化学（株）  
CD-R ：太陽誘電（株）、三菱化学（株）、（株）リコー、日立マクセル（株）  
これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。  
    ▶ 参照 エラーチェック《サイバーサポート》
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

### 3 使用できる DVD

読み出しできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM
- DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD-RAM

DVD マルチドライブモデルでは DVD に書き込むことができます。書き込みできる DVD は次の種類です。

- DVD-R  
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。  
DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW  
DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RAM  
DVD-RAM は、DVD-RAM Ver2.0 または 2.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

#### 【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、1 度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAM の種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ (取り出し不可)	×
カートリッジタイプ (取り出し可能)*2	○

\* 1 一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。

\* 2 2.6GB、5.2GB のディスクは DVD マルチドライブモデルでは書き込みできません。また、マルチドライブモデルでは使用できません。

## お願い DVD マルチドライブモデルの場合

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込む際には、次のメーカーの DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R を使用することを推奨します。

DVD-RAM : 松下電器産業 (株)

DVD-RW : 日本ビクター (株)、TDK (株)

DVD-R : 松下電器産業 (株)、太陽誘電 (株)、パイオニア (株)

これらのメーカー以外の DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- DVD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW に書き込んだデータの一部を削除することはできません。書き込まれたデータの変更は、まずすべてのデータを消去し、改めて必要なデータだけを再書き込みする必要があります。
- DVD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、必ずしもメディアに記載された容量分のデータを書き込むことはできません。
- DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、DVD の規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約 1GB に満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小 1GB のデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

**参照** エラーチェック《サイバーサポート》

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

## メモ

- 市販のDVD-RW、DVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。  
一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

## 4 DVD-RAM を使うときは

### \* DVD マルチドライブモデルのみ


ここでは、DVD マルチドライブモデルでDVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

### 1 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAM を使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDF マニュアルを確認してください。

 参照 「本項 PDF マニュアルの起動方法」

### お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

---

## ファイルシステム

---

DVD-RAM をフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

### 【UDF2.0】

DVD-VR 形式に対応したファイルシステムです。

家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性があります。

### 【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP / 2000 \*<sup>1</sup> がインストールされたパソコン\*<sup>2</sup> でもデータを読み出すことができます。

家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

- \* 1 Windows 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版
- \* 2 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

### 【FAT32】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP / Me \*<sup>1</sup> / 98 \*<sup>2</sup> がインストールされたパソコン\*<sup>3</sup> でもデータを読み出すことができます。

家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

- \* 1 Windows Me ... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版
- \* 2 Windows 98 ... Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版
- \* 3 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。



## 2 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

### 1 フォーマットする DVD-RAM をセットする

参照 → DVD-RAMのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

### 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

### 3 [DVD-RAM ドライブ (D:)] をクリックする

[DVD-RAM ドライブ (D:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

### 4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[DVDForm - D ドライブ] 画面が表示されます。

### 5 [ドライブ] と [フォーマット種別] を選択する

映像を書き込み、家庭用 DVD ビデオレコーダで再生するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF2.0)] を選択してください。

パソコンで使用するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF1.5)] を選択してください。

### 6 ボリュームラベル名を入力する

UDF 形式を選択した場合は、必ず入力してください。

## 7 [開始] ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、[物理フォーマットを実行する] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

物理フォーマットを行うと、DVD-RAM 上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います（通常は行う必要はありません）。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

## 8 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

## 9 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のDVD-RAMも続けてフォーマットする場合は、DVD-RAM を入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[DVDForm - Dドライブ] 画面で [閉じる] ボタンをクリックしてください。

## PDF マニュアルの起動方法

### 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [DVD-RAM] → [DVD-RAM ドライバー] → [DVD-RAM ディスクの使い方] をクリックする

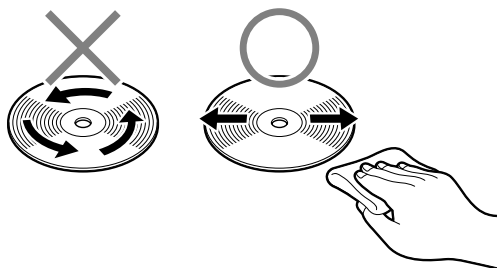
「Adobe Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

## CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



# 9 SD メモリカード

SD メモリカードを SD カードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

## 1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

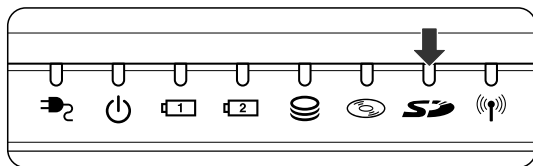
本製品の SD カードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

### お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

## 1 SD カードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



## 2 SD メモリカードのセットと取り出し

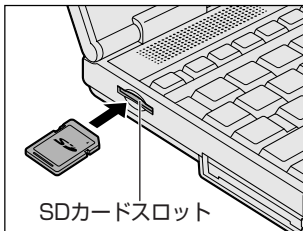
SD メモリカードをSD カードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

### お願い

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

### 1 セット



#### 1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD カードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

### 2 取り出し

#### 1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブを安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする

#### 2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

### 3 SDメモ리카ードの内容を見る

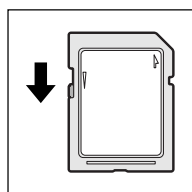
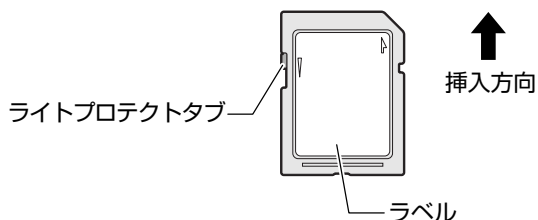
著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする  
[マイコンピュータ] 画面が表示されます。
- 2 [リムーバブルディスク (E:)] (標準値) をダブルクリックする  
セットしたSDメモ리카ードの内容が表示されます。

## 3 SDメモ리카ードを使う前に

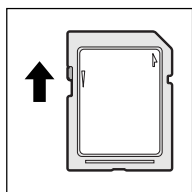
### 1 ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



#### 書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



#### 書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。

## 2 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモリカードを使えるようにすることです。

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、「東芝SDメモリカードフォーマット」またはSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモリカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

### お願い

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。


## 東芝SDメモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

ここでは「東芝SDメモリカードフォーマット」を使用してフォーマットする方法を説明します。

### お願い

「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

### 1 SDメモリカードをセットする

 参照 SDメモリカードのセットについて  
「本節 ② SDメモリカードのセットと取り出し」

- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [SDメモリカードフォーマット] をクリックする  
[東芝SDメモリカードフォーマット] 画面が表示されます。

- 3 [ドライブ] で、フォーマットしたいSDメモ리카ードがセットされているドライブを確認し、必要に応じて [フォーマットオプション] でフォーマットの種類を設定する



- 簡易フォーマット

ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。

- 完全フォーマット

SDメモ리카ードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

4 [スタート] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。

5 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。

フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

「東芝 SDメモ리카ードフォーマット」を終了する場合は、[終了] ボタンをクリックしてください。



## SD メモリカードの取り扱い

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。  
SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。  
ゴミや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。  
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

# 10 ワンタッチボタン

本製品には、簡単にインターネットブラウザソフトやメールソフトなどを起動することができる、3つのワンタッチボタンがあります。

各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン ..... Internet Explorer
- メールボタン ..... Microsoft Office Outlook
- サイバーサポートボタン ..... サイバーサポート

## 【パソコン本体の電源が入っていないとき】




電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

## 【スタンバイ状態／休止状態のとき】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

## 1 ボタンに割り当てるアプリケーションを変更する

各ボタンを押したときに起動するアプリケーションや、動作を設定することができます。

- 1 【コントロールパネル】を開き、[  プリンタとその他のハードウェア ] をクリックする
- 2 [  東芝コントロール ] をクリックする  
[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 変更するボタン名の下 [  ] ボタンをクリックする



ボタンに設定できる動作の一覧が表示されます。

- 4 [アプリケーションの指定] を選択して、[OK] ボタンをクリックする  
[指定] 画面が表示されます。

このとき、他の項目を選択した場合は手順8に進んでください。

- 5 [参照] ボタンをクリックする



[ファイルを開く] 画面が表示されます。

- 6 ボタンに設定したいアプリケーション名をクリックし①、[開く] ボタンをクリックする②

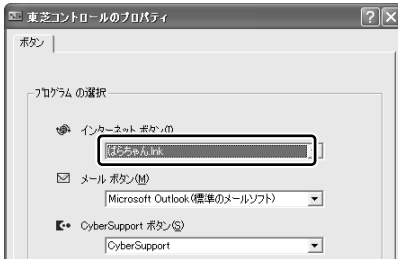
[指定] 画面に戻ります。

[アプリケーション名] に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。

- 7 [OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

割り当てたいボタンの欄に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。



- 8 [OK] ボタンをクリックする

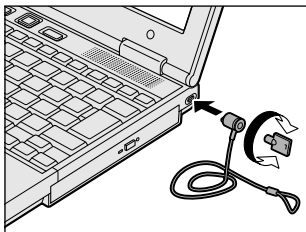
# 11 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

## 1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



## 2章

# 音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。写真やDVD-Videoの映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

---

1	音楽CDを聴く	70
2	音楽ファイルを聴く	74
3	オリジナル音楽CDを作る	81
4	DVD-Videoを観る	86
5	デジタルカメラの写真を編集／整理する	92
6	オリジナルDVDを作る	95

# 1 音楽 CD を聴く

本製品では音楽 CD を聴くことができます。

## メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

## 1 音楽 CD を再生する

音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- BeatJam ビートジャム
- Windows Media Player ウィンドウズ メディア プレーヤ

## 1 起動方法

### 1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする


[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

**参照**▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

[Audio CD (D:)] 画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブを右クリックし、[自動再生] をクリックしてください。

### 2 使用するアプリケーションを選択し、[OK] ボタンをクリックする

使用するアプリケーションが「BeatJam」の場合は [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用]、「Windows Media Player」の場合は [オーディオ CD を再生します Windows Media Player 使用] を選択してください。選択したアプリケーションが起動します。

「BeatJam」を起動したいのに [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されない場合は、[閉じる] ボタン (  ) をクリックして画面を終了し、[スタート] → [すべてのプログラム] → [JUSTSYSTEM アプリケーション] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックして起動してください。

次回から [Audio CD (D:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されるように、「BeatJam」で設定できます。

**参照**▶ 設定方法『困ったときは 3 章 Q BeatJam が起動できない』

## BeatJam を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[使用許諾契約の確認] 画面が表示されます。契約内容を読んで、[同意する] ボタンをクリックしてください。[同意する] ボタンをクリックしないと、「BeatJam」を使用できません。

## Windows Media Player を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[Windows Media Player 9 シリーズへようこそ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってプライバシーオプションとインストールオプションを設定してください。

インストールオプションの設定では、[ファイルの種類] タブで [DVD ビデオ] のチェックをはずしてください。

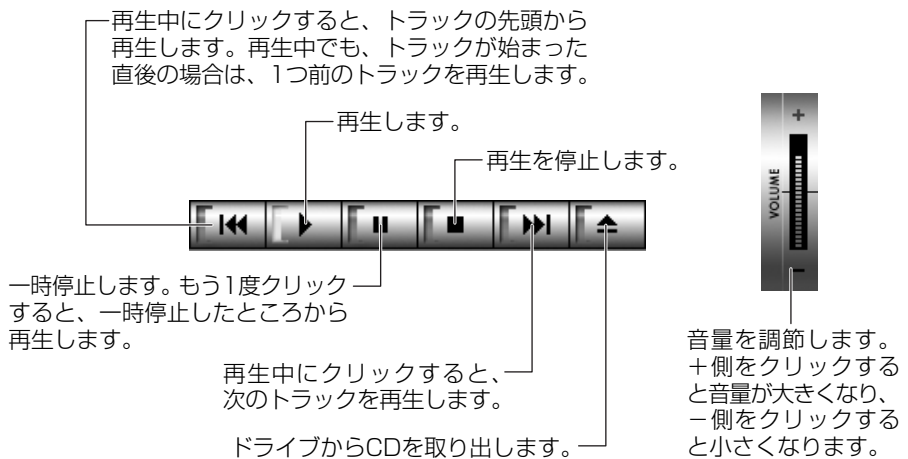


DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」の使用を推奨します。

## 2 操作画面

アプリケーションごとの各操作ボタンの役割は次のとおりです。

### BeatJam を起動した場合



### 【ヘルプの起動方法】

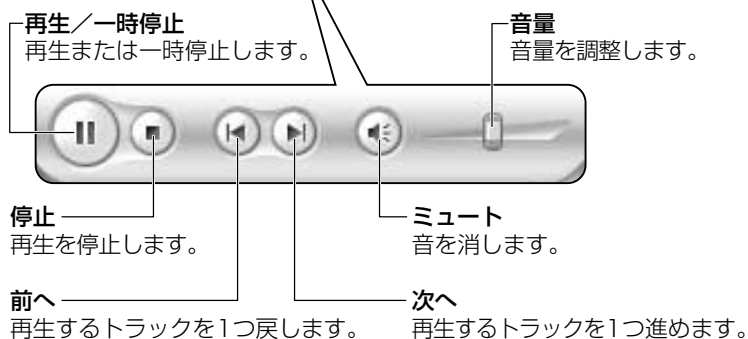
- 1 「BeatJam」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [BeatJamの使い方] をクリックする

参照 → 「BeatJam」の問い合わせ先  
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』



## Windows Media Player を起動した場合

Windows Media Player の画面の上の方にポインタをあわせると、タイトルバーやメニューバーが表示されます。



### 【ヘルプの起動方法】

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

参照 ▶ 「Windows Media Player」の問い合わせ先  
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

## 2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav)
- WMA形式 (.wma)
- MP3形式 (.mp3) など

### メモ

「BeatJam」はMP3ファイルの再生は可能ですが、MP3形式のデータを作成することはできません。

## 1 BeatJamでファイルを再生する

### 1 音楽ファイルを直接再生する

次のようにファイルを再生します。

- 1 [ライブラリ] ボタン (  ) をクリックする

[ライブラリ] 画面が表示されます。



- 2 画面左にある一覧で [すべての曲] をクリックし①、[マイコンピュータ] など再生したい音楽ファイルを「BeatJam」のメイン画面にドラッグアンドドロップする②



音楽ファイルはアルバム名やアーティスト名によって、自動的にカテゴリに分類されて追加されます。

プレイリストが作成されている場合、プレイリストにドラッグアンドドロップするとそのプレイリストにも追加されます。

参照 ▶ プレイリストについて「本項 2 プレイリストを作成する」

### 3 画面左でカテゴリやグループを選択し①、表示された一覧から再生したいファイルを選択する②



このとき画面左の [すべての曲] をクリックすると、カテゴリやグループに分けず、すべてのファイルが表示されます。

### 4 [再生] ボタン (▶) をクリックする

選択したトラックが再生されます。

選択したトラックのあとは、一覧に表示されている順に再生されます。

## 2 プレイリストを作成する

音楽ファイルを好きな順序に並べてプレイリストを作成すると、複数の音楽ファイルを聴きたい順番で再生することができます。

### 1 ライブラリにファイルを追加する

ライブラリにファイルを追加して、プレイリスト作成の準備をします。

#### ● 音楽 CD のトラックをコピーする場合

##### ① [CD] ボタン (CD) をクリックする

[CD] 画面が表示されます。

##### ② 音楽 CD をドライブにセットする

自動的に再生が始まったときは、[停止] ボタン (■) をクリックして停止してください。

[Audio CD] 画面が表示されたときは、[キャンセル] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

##### ③ 一覧で、録音したいトラックの左側にあるボックスをチェック (☑) する

一覧の左下にある ☑ をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されます。☐ をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されません。

##### ④ [曲のビットレート] (132k | 105k | 66k) で、どのビットレートで録音するかを選択する

ビットレート数が高いほど、良い音質で録音されます。

##### ⑤ [録音] ボタン (▶) をクリックする

[CDの録音] 画面が表示され、録音が始まります。

##### ⑥ 録音が終わったら、[閉じる] ボタンをクリックする


## 曲情報を取り込む

音楽 CD の情報を Gracenote CDDb から取り込むことができます。Gracenote CDDb については、BeatJam のヘルプを確認してください。Gracenote CDDb は、ユーザ登録しないと使用できません。Gracenote CDDb で曲の情報を取り込めないときは、[Artist] にアーティスト名や、[Genre] にジャンル名を入力します。ジャンル名はメニューから選択することもできます。

- ファイルを追加する場合

「本項 1 音楽ファイルを直接再生する」の手順 1、2 を参照して、音楽ファイルをライブラリに追加してください。

2 [ライブラリ] ボタン (  ) をクリックする

3 [編集メニュー] ボタン (  ) をクリックして、表示されるメニューから [プレイリストの新規作成] をクリックする

[プレイリストの一覧] に「New Playlist」という新しいプレイリストが作られます。



4 新しいプレイリストの名前を入力し、(Enter) キーを押す  
プレイリスト名が確定されます。

5 追加したいファイルが含まれているグループを、画面左の一覧にある [すべての曲] ~ [お好み検索] から選択する



6 一覧から、プレイリストへ追加するファイルを選択する



(Ctrl) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が離れている複数の曲を選べます。(Shift) キーを押したままファイルをクリックすると、順番が続いている複数の曲を選べます。

7 選択したファイルをドラッグし、画面左の一覧にある、追加したいプレイリストの上でドロップする  
プレイリストに曲が追加されます。

### 3 プレイリストから再生する

- 1 [ライブラリ] ボタン (  ) をクリックする
- 2 画面左の一覧にある [プレイリスト] の中から、聴きたいプレイリストをクリックする
- 3 [再生] ボタン (  ) をクリックする  
一覧に表示されている順に再生されます。

## 2 Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

### 1 音楽ファイルを再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 「Windows Media Player」のメニューバーから [ファイル] → [開く] をクリックする
- 2 聴きたい曲のファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

▶ 参照 Windows Media Playerの操作について「本章 1-①-2 操作画面」

## 2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

### 1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽 CD のトラックをコピーする場合
  - ① 音楽 CD をセットする
  - ② [CD から録音] ボタンをクリックする
  - ③ コピーするトラックをチェックする
  - ④ [音楽の録音] ボタンをクリックする
  - ⑤ [録音オプション (1 / 2)] 画面でオプションを選択する
  - ⑥ 「CD から録音される音楽が、…」の項目を読み、チェックする
  - ⑦ [次へ] ボタンをクリックする
  - ⑧ [録音オプション (2 / 2)] 画面でオプションを選択する
  - ⑨ [完了] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
  - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルまたは再生リストを追加] をクリックする
  - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
  - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
  - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

### 2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



メディアライブラリを初めて使うときに限り、メッセージが表示されます。  
[いいえ] ボタンをクリックしてください。

## 3 [すべての音楽] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

## 4 [再生リスト] ボタンをクリックし①、表示されたメニューから [新しい再生リスト] をクリックする②

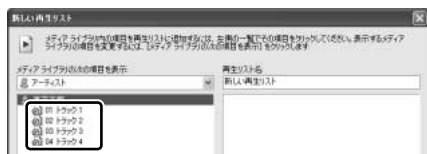


## 5 [メディア ライブラリの次の項目を表示] で再生リストに追加したいファイルのカテゴリを選択し①、表示されたカテゴリから目的の項目を選択する②



ファイルの一覧が表示されます。

## 6 再生リストに追加するファイルをクリックする



クリックしたファイルが、[再生リスト名] の下に表示されます。

## 7 [再生リスト名] に再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②

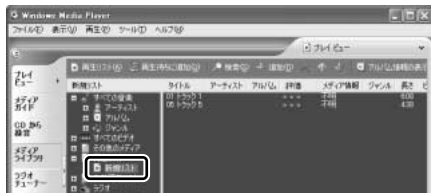


ここでは例として再生リスト名を「新規リスト」とします。

ファイルが再生リストに追加されます。  
新しい再生リストが作成されました。

## 3 再生リストから再生する

### 1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

### 2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。



# 3 オリジナル音楽CDを作る

ドラッグン ドロップ シーディー プラス ディービー ディー  
「Drag'n Drop CD + DVD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

## 1 Drag'n Drop CD + DVD を使うために

### お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してください。本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外のCD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

**参照**▶ CD-RW、CD-Rについて 「1 章 8-② 使用できるCD」


- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

**参照**▶ 省電力機能について 「5 章 バッテリー駆動」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。

- ・スクリーンセーバ
- ・ウイルスチェックソフト
- ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
- ・モデムなどの通信アプリケーション など

ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

- 
- SDメモ리카ード、PCカードタイプのハードディスクドライブ、USB接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
  - LANを経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
  - 「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
  - 本製品に付属している「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してDVD-Video、DVD-Audioを作成することはできません。
  - 「Drag'n Drop CD + DVD」の [Music BOX] () を使用して、DVD-RW、DVD-Rに音楽情報を書き込むことはできません。

### お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- 「Drag'n Drop CD + DVD」は、DVD-RAMメディアへの書き込みをサポートしていません。
  - タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替えるなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
  - パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
  - 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。  
PCカード、USB対応機器、外部ディスプレイ、テレビ、i.LINK対応機器、SDメモ리카ード
  - パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
  - 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
-

## 2 Drag'n Drop CD + DVD を使う

「Drag'n Drop CD + DVD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

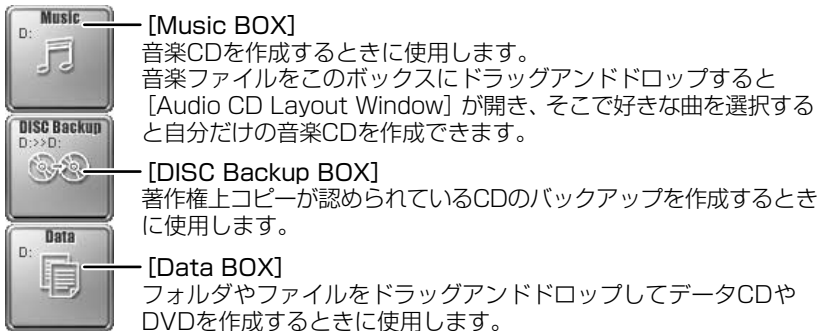
「Drag'n Drop CD + DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

### 1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD] をクリックする  
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

### 2 Drag'n Drop CD + DVD の基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



**参照** ▶ 詳細について『困ったときは 2章 2 バックアップをとる』

CDに保存されているWMA方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

### 3 音楽CDを作成する

#### 1 音楽CDをドライブにセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示された場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

#### 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

#### 3 [Audio CD (D:)] アイコン ( ) を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽CDトラック情報] には曲情報が表示されています。

#### 4 [ブランク CD サイズ] を指定する

#### 5 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン (  ) をクリックすると試し聴きできます。



#### 6 [選択トラックをリストに追加] ボタン ( ) をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽CDからも取り込みたい場合は、ここで音楽CDを入れ替え、手順5、6を繰り返します。

7 音楽CDを取り出し、未使用のCD-Rをセットする

8 【書き込み】ボタン (  ) をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

## ヘルプの起動方法


「Drag'n Drop CD + DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

1 【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【Drag'n Drop CD + DVD】 → 【Drag'n Drop CD + DVD Help】 をクリックする  
「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプが表示されます。

 参照 「Drag'n Drop CD + DVD」の問い合わせ先  
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

## 3 Drag'n Drop CD + DVD を終了する

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了するときは、次の手順で行います。

1 通知領域の【Drag'n Drop CD + DVD】アイコン (  ) を右クリックし、表示されたメニューから【終了】をクリックする  
デスクトップ上に表示されていたアイコンが消えます。

# 4 DVD-Video を観る

本製品は、ドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、「インタービデオ ウィンディーブイディー InterVideo WinDVD」が用意されています。


## お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- CRT やテレビなどの外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示するための設定が必要です。

内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイに Clone 表示をしているとき DVD-Video を再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、内部液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示するか、拡張表示に設定してください。

 参照 ▶ 表示装置の切り替え「4章 4-2 テレビに表示する」

- 画面を 32 ビットに設定して DVD-Video を再生すると、動画が表示されない場合があります。その場合は再生しているウィンドウのサイズを大きくするか、「コントロールパネル」を開いて「デスクトップの表示とテーマ」をクリック→「画面」をクリック→「設定」タブで「画面の色」を「16 ビット」に設定してください。

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme\st.txt] をクリックしてください。

## 1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」を起動する方法は、次のとおりです。

### 1 起動方法

#### 1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

**参照** DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1-③ CD/DVD』

アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブをダブルクリックしてください。

「InterVideo WinDVD」が起動します。

#### 2 [DVDムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

#### メモ

[スタート] メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [InterVideo WinDVD] をクリックしてください。

## 2 InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。  
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ  
ビデオを表示します。

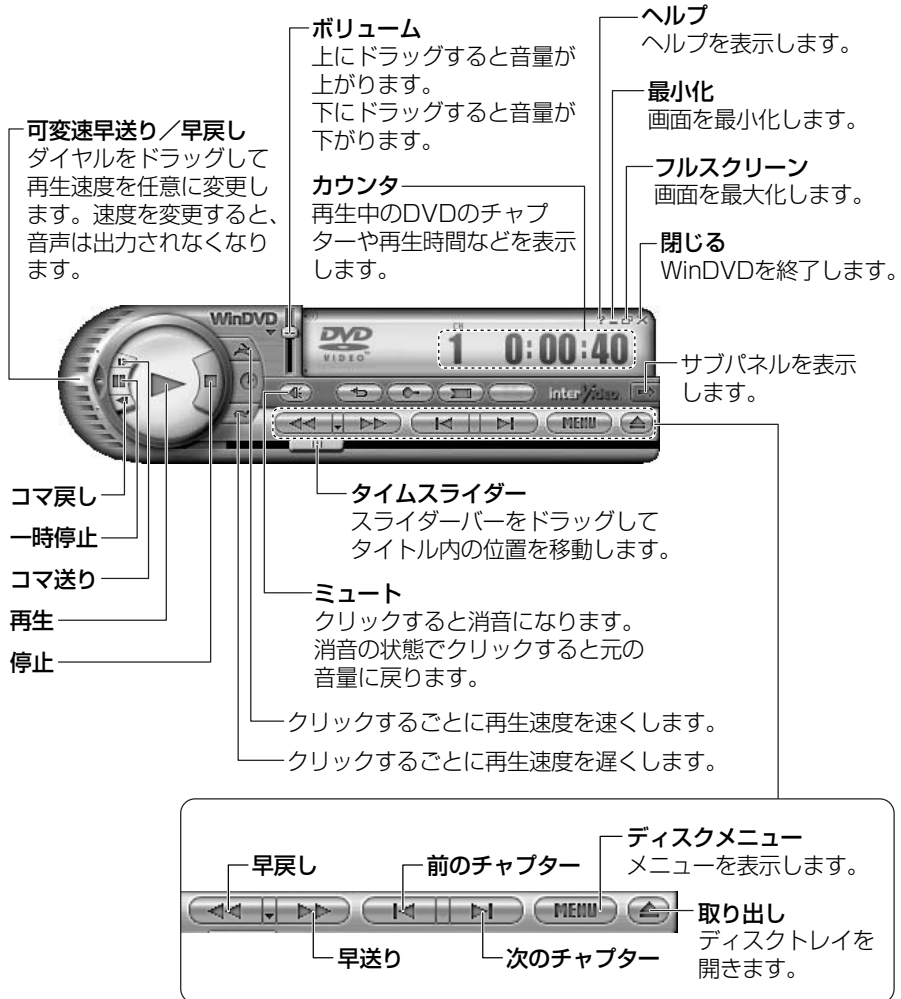


**WinDVDコントロールパネル**  
DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。  
再生の操作でおもに使用するボタンについては、  
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照して  
ください。



## 1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。  
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



## 2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

### 【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

### 【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



## 3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする




[セットアップ] 画面が表示されます。  
各タブで設定を行ってください。

## 4 テレビに表示する


パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Videoの再生画面をテレビに表示させることができます。


テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

 参照 → テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 4 テレビを接続する」

### ヘルプの起動方法

- 1 WinDVDコントロールパネルの【ヘルプ】ボタン (  ) をクリックする

 参照 → 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先  
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

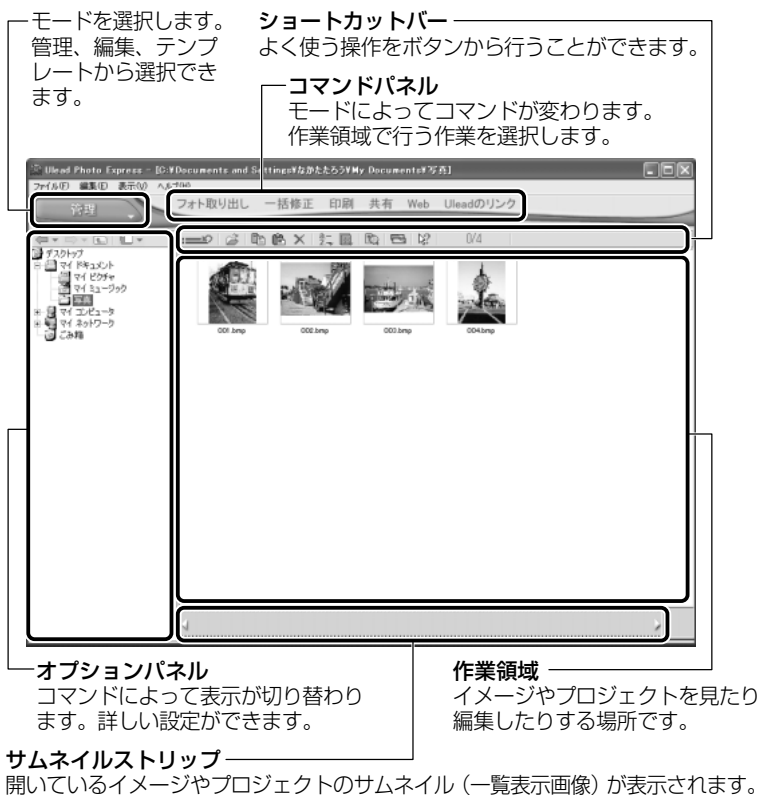
# 5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「ウォーカー デジカメ Walker (ユーリード Ulead アイフォト iPhoto エクスプレス Express)」が用意されています。

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

## 1 起動方法



- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする

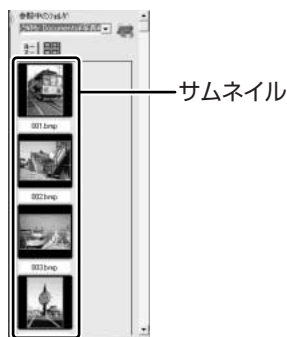


## 2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 **【編集】モード** (  ) でコマンドパネルから **【フォト取り出し】** → **【マイコンピュータ】** をクリックする  
オプションパネルに **【参照中のフォルダ】** が表示されます。
- 2  をクリックし、表示されたメニューから **編集する写真のあるフォルダ** をクリックする  
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 **編集する画像のサムネイル** をクリックし、**【開く】** ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

- 4 コマンドパネルから **【編集】** のメニューをクリックし、**画像を加工する**

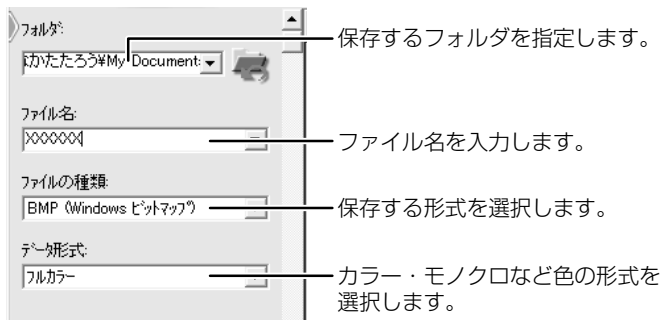
次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

### 3 加工した画像を保存する

#### 1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする

オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



#### 2 [保存] ボタンをクリックする

### ヘルプの起動方法

- 1 「**デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)**」を起動後、メニューバーから **[ヘルプ]** → **[Ulead iPhoto Express のヘルプ]** をクリックする

### PDF マニュアルの起動方法

- 1 **[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[デジカメ Walker]** → **[Screenbook]** をクリックする

**参照** → 「**デジカメ Walker**」の問い合わせ先  
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

# 6 オリジナル DVD を作る

ウィンディーブイディー クリエーター プラチナム  
「WinDVD Creator 2 Platinum」を使ってデジタルビデオカメラで撮影した映像を本製品に取り込み、編集できます。また、DVD マルチドライブモデルでは、編集した映像データを DVD に書き込むこともできます。

「WinDVD Creator 2 Platinum」は、本製品にはインストールされていません。インストールしてから使用してください。

**参照**▶ 「WinDVD Creator 2 Platinum」のインストールについて  
『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』

## お願い WinDVD Creator 2 Platinum の使用にあたって

- 「InterVideo WinDVD」などの映像を再生するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示されない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。外部ディスプレイには表示されません。
- 著作権保護された映像が保存されている DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R の映像の編集は「WinDVD Creator 2 Platinum」では行えません。
- 著作権保護されているコンテンツは再生できません。
- 「WinDVD Creator 2 Platinum」の動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないでください。

## 1 映像データをパソコンに取り込む

デジタルビデオカメラを接続し、映像データをパソコンに取り込みます。

### 1 i.LINK (IEEE 1394) ケーブルをパソコン本体に接続する

**参照**▶ i.LINK ケーブルの接続  
[4 章 6 i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を接続する]

### 2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

### 3 デジタルビデオカメラの電源を入れる

[デジタル ビデオ デバイス] 画面が表示されます。

#### 4 [DVDムービーの記録、編集、作成 WinDVD Creator 使用] を選択し①、[OK] ボタンをクリックする②



「WinDVD Creator 2 Platinum」が起動します。

「WinDVD Creator 2 Platinum」が起動しない場合やデジタルビデオカメラを接続しない場合などは、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD Creator] → [InterVideo WinDVD Creator] をクリックして起動してください。

「WinDVD Creator 2 Platinum」の使い方については、同梱の『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

## ヘルプの起動方法

### 1 メニューバーの [ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする

参照 → 「WinDVD Creator 2 Platinum」の問い合わせ先  
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

## 2 映像データの編集について

映像データを「WinDVD Creator 2 Platinum」で編集することができます。編集の方法については、同梱の『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。「WinDVD Creator 2 Platinum」は、本製品にはインストールされていません。あらかじめインストールしてください。

参照 → インストールについて  
『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』



### お願い 編集した映像データについて

- 編集した映像データを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

編集した映像データは、デジタルビデオ機器に出力することができます。

## 3 映像データをDVDに書き込む

### \* DVD マルチドライブモデルのみ

映像データをDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込むことができます。書き込み方法については、同梱の『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

「WinDVD Creator 2 Platinum」は、本製品にはインストールされていません。あらかじめインストールしてください。

参照 → インストールについて  
『WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』

### お願い

#### 映像データをDVDに書き込む前に

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込みを行う際には、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨されているメディアを使用してください。

参照 → DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて  
「1章8-③ 使用できるDVD」

守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 
- 本製品に付属の「WinDVD Creator 2 Platinum」以外の映像データライティングソフトウェアは動作保証していません。
  - バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを使用してパソコンを電源に接続して使用してください。
  - 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

 詳細について 「5 章 2 省電力の設定をする」

「5 章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・ スクリーンセーバ
  - ・ ウイルスチェックソフト
  - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては動作の不安定やデータの破損の原因となるので、使用しないことを推奨します。

#### 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。  
PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード、メモリスティック、PRT コネクタに接続する機器
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

### 「WinDVD Creator 2 Platinum」の「ムービー作成」について


- DVD-RW、DVD-RにVRフォーマットでの書き込みはできません。
- 書き込みが可能なDVD-RW、DVD-Rへ最大約2時間の映像データをDVDビデオフォーマットで記録できます。
- DVD-AudioやVideo CD、miniDVDを作成することはできません。
- DVD-RAMにDVDビデオフォーマットで記録できますが、作成されたメディアはパソコンなどDVD-RAMが読める環境でのみ再生可能となります。
- DVD-RW、DVD-Rへ書き込みを行うには、ビデオの長さ1時間当たりハードディスクに2GB以上の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。
- DVD-RW、DVD-Rに映像データを書き込む場合、映像データの大きさや編集のしかたによってはデータの変換に数時間かかることがあります。

### 作成したDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて

- 作成したDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合があります。
- 作成したDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。

### 「WinDVD Creator 2 Platinum」の「ディスクマネージャー」について

- DVD-RAMへ書き込むには、あらかじめフォーマットツールでUDF2.0形式のフォーマットをしておく必要があります。

 参照 DVD-RAMのフォーマット「1章8-4 DVD-RAMを使うときは」

- 扱えるプレイリストは1個だけです。
- DVD-RAMレコーダでプログラムなどに設定したサムネイル画像と異なるサムネイル画像が表示されることがあります。



## 3章

# 通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

- 
- 1 LANへ接続する 102
  - 2 Bluetooth 機能を使う 119
  - 3 内蔵モデムについて 130

# 1 LANへ接続する

## 1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

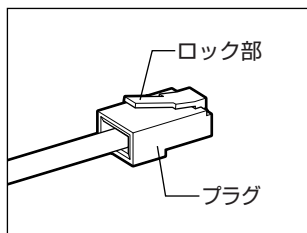
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

### 1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときには、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

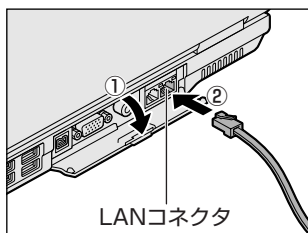
10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときには、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 パソコン本体のコネクタカバーを開き①、LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む②



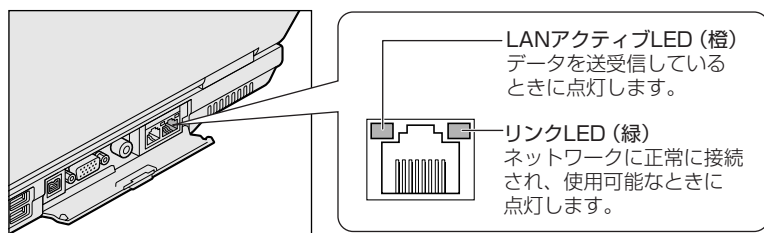
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

### 3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

## 2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。




## 3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

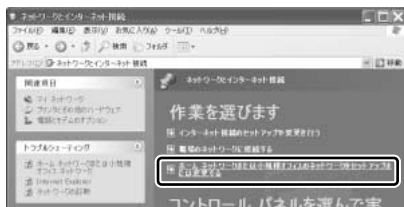
購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

### お願い

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

1 [コントロールパネル] を開き、[  ネットワークとインターネット接続 ] をクリックする

## 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

## 2 ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

\* 本書では、内蔵されている無線 LAN モジュールが IEEE802.11b のモデルに関して説明します。

本製品には、無線 LAN 機能が内蔵されています。

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

### 1 無線 LAN の概要

本製品には IEEE802.11b に準拠した無線 LAN モジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能  
11、5.5、2、1Mbps の転送レートから選択可能です。
- 周波数チャネル選択（2.4GHz 帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化（WEP）



## 【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANは最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- Wi-Fi Alliance 認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。  
Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11b に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴはWi-Fi Alliance の認定マークです。

## 【無線LAN製品ご使用时におけるセキュリティに関するご注意】

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です！)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる  
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、  
IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報  
メールの内容  
などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される  
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、  
個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)  
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)  
傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)  
コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)  
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN カードや無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

無線 LAN 内蔵ノートパソコンのセキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、東芝 PC ダイアル（巻末参照）までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

## 【 暗号化 】

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめいたします。

 **参照** → WEP 機能の設定「本項 4-WEP 機能を設定する」

## お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 3-6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

## 2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような機能があります。

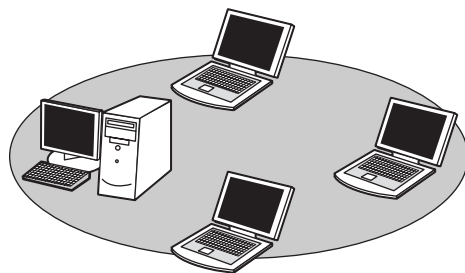
- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する  
    ▶ 「本項-ピア・ツー・ピアワークグループ」
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

▶ 「本項-インフラストラクチャネットワーク」

### ピア・ツー・ピアワークグループ

無線LANアクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office（SOHO）など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような「ファイルとプリンタの共有」などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

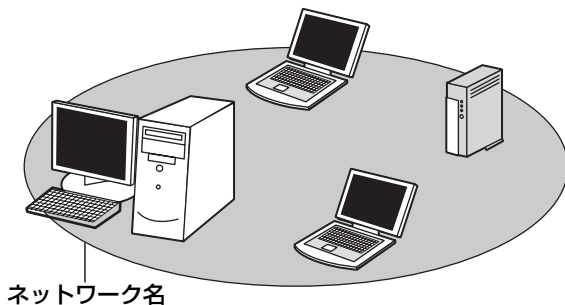
▶ ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

## インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。LAN のバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

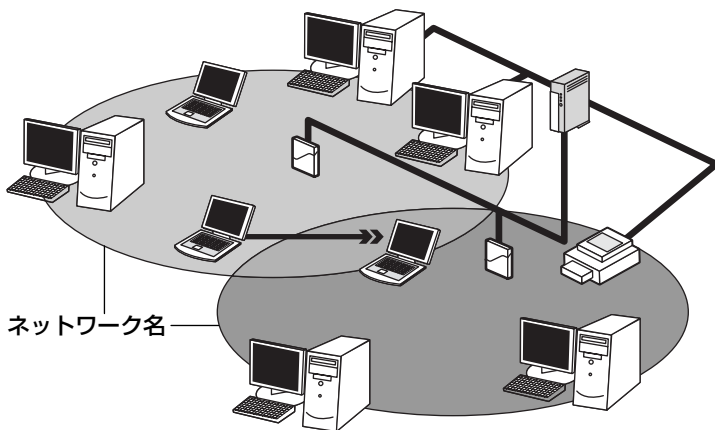
### 【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



### 【インフラストラクチャネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。


参照 → ネットワーク接続のための設定について 「本項 3 基本設定」

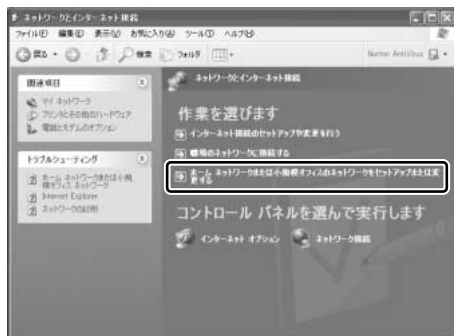
### 3 基本設定

無線LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

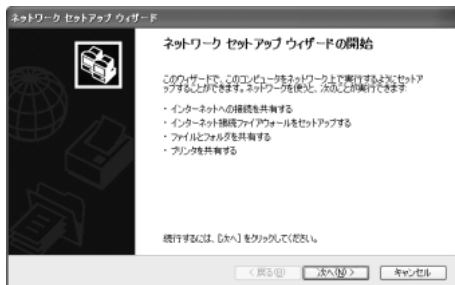
Windows XPは、標準で無線LAN ネットワークに対応しています。

#### ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  ネットワークとインターネット接続 ] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

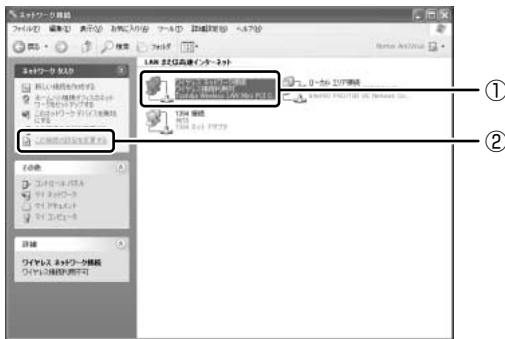


## 4 詳細設定

無線 LAN は、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

### プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする  
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

## WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEP での暗号化には 128 ビットと 64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

### 1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

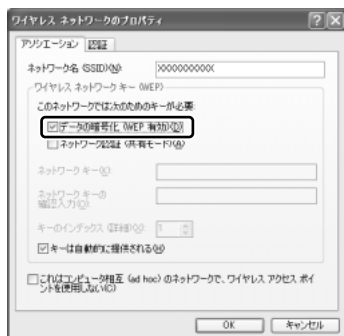
参照▶「本項 4- プロパティ画面の表示」

### 2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

### 3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



## 4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合

[キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する

- ネットワークキーが自動的に提供されない場合

① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす

② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高 (128ビット)	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「\*\*\*\* (アスタリスク)」で表示されます。

## 5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

## 5 無線LANを使う

### お願い

Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

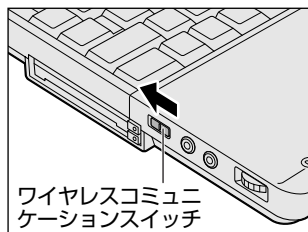


ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

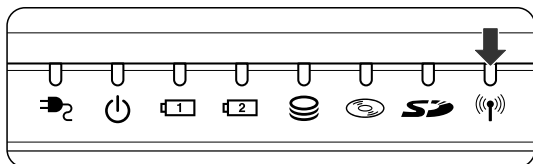
### 警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。  
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

## 1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線LAN) LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

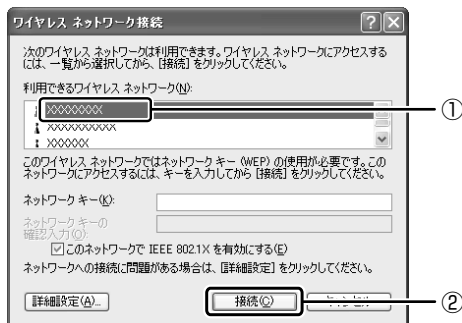
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

## 2 【ワイヤレスネットワーク接続】アイコン (無線LAN) を右クリックし、表示されたメニューから【利用できるワイヤレスネットワークの表示】をクリックする

【ワイヤレスネットワーク接続】画面が表示されます。

### 3 [利用できるワイヤレスネットワーク] の使いたいネットワークを選択し①、[接続] ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは [ネットワークキー] にネットワークキーを入力し、[接続] ボタンをクリックしてください。



接続できると、通知領域に [ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました] とメッセージが表示されます。

### 4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする

### 5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

#### 役立つ 操作集

#### 通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

#### ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。  
《サイバーサポート》でも検索できます。

## 3 ネットワーク設定に便利な機能


本製品に用意されている「コンフィグフリーConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）により自動でプロファイルを切り替える機能を使えば、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。

また、LANケーブルが抜かれたときに、自動で無線LANに切り替える機能も用意されています。


「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

### 「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windowsを起動すると通知領域にアイコン（)が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

#### 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

通知領域にアイコン（)が表示され、[ConfigFree（ネットワークドクター）] 画面と「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降「ConfigFree」の説明画面が必要ない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

Bluetoothと同時使用する際の[注意]画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

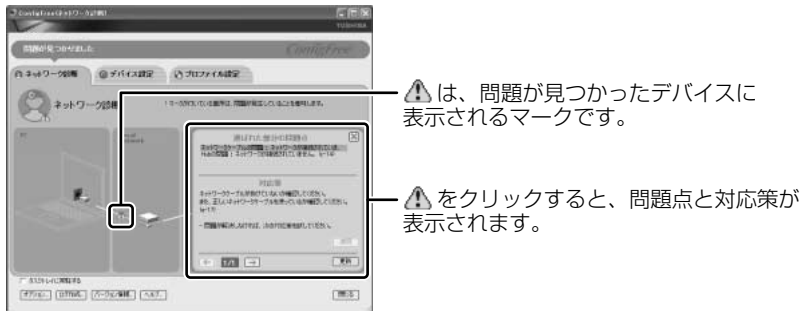
### 1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

#### 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン（) をクリックし、表示されたメニューから [ネットワーク診断] をクリックする

[ConfigFree（ネットワーク診断）] 画面が表示されます。


## 【[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面】



また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタをあわせると、それぞれのデバイスの説明や IP アドレスなどの情報が表示されます。

## 2 デバイスを切り替える


「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン (  ) をクリックする  
メニューが表示されます。  
[デバイス] の下に表示されている項目が使用できるデバイスです。
- 2 有効/無効にしたいデバイス名にポインタを合わせ①、有効/無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

## 【その他のデバイス設定】

[ConfigFree] アイコン (  ) → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- 自動切り替え (ケーブル切断)  
[ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。
- ネットワーク接続  
[ネットワーク接続] ボタンをクリックすると [ネットワーク接続] 画面が表示され、ネットワーク接続とダイヤルアップ接続の設定が行えます。

## 3 ネットワーク設定を切り替える

[ConfigFree] では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

### 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン ( ) をクリックする


メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

### 2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

## 【その他のプロファイル設定】

[ConfigFree] アイコン (  ) → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- プロファイルの追加  
[追加] ボタンをクリックすると、[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。
- プロファイルの削除  
プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。

---


- **自動切り替え (SSID)**

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。  
[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。  
接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして  
検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、東芝製の無線 LAN 機能を内蔵したプロジェクタ (TOSHIBA 液晶データ  
プロジェクタ: TLP-T720J / TLP-T721J。2003 年 10 月現在) との通信設  
定を簡単に行えるクイックコネクト機能などがあります。

---

## 終了方法

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン (  ) を右クリックし、表  
示されたメニューから [終了] をクリックする

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

---

## ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンを  
クリックする  
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

---

## ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネット  
ワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリッ  
クする

# 2 Bluetooth 機能を使う

\* Bluetooth モデルのみ

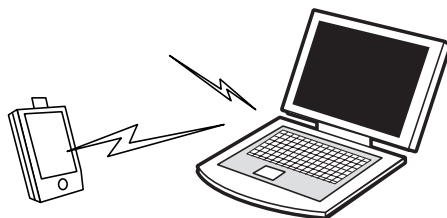
## 1 Bluetooth とは

ブルートゥース

Bluetooth とは、無線通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD カードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のマウスを利用したりできます。

- PDA やマウスと…

(使用例)



また、Bluetooth 対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となる Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。2 つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

### お願い

- 本製品は、すべての Bluetooth 対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべての Bluetooth 対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品の Bluetooth 機能を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

### メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。


## 【通信距離と速度】

本製品は、見通し約 10 m の範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約 720kbps です。通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OS などにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

## 【セキュリティ】

Bluetooth 機能を使って通信を行うときに使用する 2.4GHz 帯は、日本をはじめ世界各国で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定の Bluetooth 対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth 対応機器には、それぞれ固有の ID が割り振られ、接続時には ID の交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能があります。また、本製品にインストールされている「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」の「Bluetooth 設定」で、初めて通信を開始するときに「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。Bluetooth パスキーについては、「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」のヘルプ『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を参照してください。

 『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』の起動方法  
「本節 ②-3-ヘルプの起動」

## 【Bluetooth 標準規格】

Bluetooth は様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国・各メーカーの Bluetooth 対応機器でスムーズに通信できるように Bluetooth SIG (Special Interest Group) が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。

また、各メーカーは Bluetooth 対応機器の発売にあたり、その Bluetooth 対応機器が Bluetooth 標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIG によって認証された Bluetooth 対応機器には、Bluetooth ロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。



### 【サポートしているプロファイル一覧】

本製品でサポートしている Bluetooth プロファイルは次のとおりです。

- **ダイヤルアップネットワーキングプロファイル (DUN)**  
ダイヤルアップで接続するプロファイルです。
- **FAX プロファイル (FAX)**  
ファックスを転送するプロファイルです。
- **LAN アクセスプロファイル (LAP)**  
アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- **シリアルポートプロファイル (SPP)**  
シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- **ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル (HID)**  
マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- **ハードコピーケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)**  
印刷を行うプロファイルです。
- **ファイル転送プロファイル (FTP)**  
ファイルを転送するプロファイルです。
- **オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)**  
vCard などのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- **ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)**  
Bluetooth の環境設定を変更するプロファイルです。
- **サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)**  
SDP を制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- **サービスディスカバリープロトコル (SDP)**  
サービスを探すプロトコルです。
- **アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル (A2DP)**  
高品質のオーディオを転送するプロファイルです。
- **オーディオ/ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)**  
オーディオ・ビデオのリモコンに関するプロファイルです。
- **ジェネリックオーディオ/ビデオディストリビューションプロファイル (GAVDP)**  
オーディオ・ビデオコンテンツを転送するプロファイルです。

Bluetooth を利用して Pocket PC と ActiveSync を行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常は COM7 ポートを指定することができます。

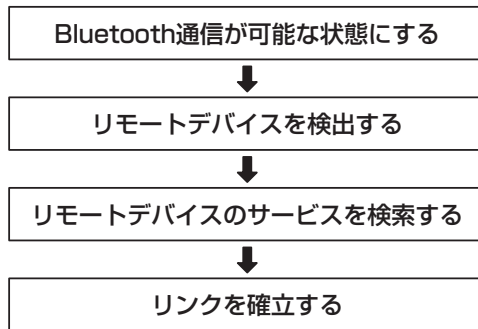
## 2 Bluetooth 機能を使って通信する

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」がプレインストールされています。

- Bluetooth 設定
- Bluetooth Manager
- Bluetooth Information Exchanger
- Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)
- Bluetooth Local COM

これらの中心となるのは、「Bluetooth 設定」と「Bluetooth Manager」です。ここでは「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」の基本的な使いかたを紹介します。

通信するまでの流れは、次のとおりです。



## 1 Bluetooth通信が可能な状態にする

## ⚠ 警告

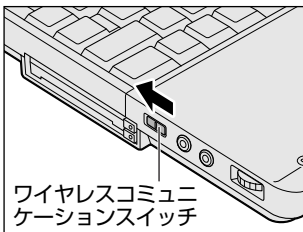
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

## お願い

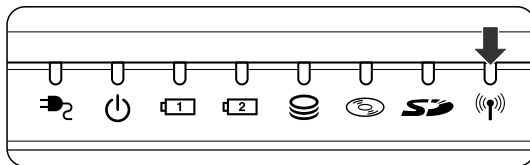
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

## Bluetooth 機能の起動方法


- 1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (📶) LED が点灯します。




## 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [Bluetooth Manager] をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に「Bluetooth Manager」アイコン（)が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。


初めて起動したときは、「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。

途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としないので、「続行」ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



「Bluetooth Manager」アイコン（) はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線 LAN (Wireless LAN) と同時に使用する際の「注意」画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、「OK」ボタンをクリックして画面を閉じてください。

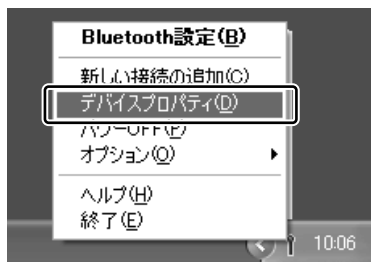
Bluetooth の電源が入っていない場合には、「Bluetooth Manager」アイコン（) を右クリックして表示されたメニューから、「パワー ON」を選択して電源を入れてください。

### デバイス名の設定

自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。1 度設定した名前を使用するときは、この操作は必要ありません。

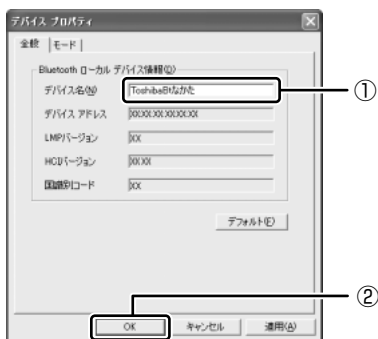
#### 1 通知領域の「Bluetooth Manager」アイコン（) を右クリックする

## 2 表示されたメニューから [デバイスプロパティ] をクリックする



[デバイスプロパティ] 画面が表示されます。

## 3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②




ここでは、名前を「ToshibaBtながた」と入力しています。

デバイス名が設定されます。

## Bluetooth 設定の起動

「Bluetooth 設定」は、他の Bluetooth 対応機器との通信を管理するユーティリティです。

- 1 Bluetooth 通信が可能な状態にする
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン (  ) をダブルクリックする

「Bluetooth 設定」が起動します。

初めて起動するとき、または、通信を行うことができる他の Bluetooth 対応機器が登録されていないときは、[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。

**参照** → [新しい接続の追加ウィザード] 画面  
「本項 2 リモートデバイスを登録する」

## 2 リモートデバイスを登録する

「Bluetooth 設定」に、通信を行いたい Bluetooth 対応機器を登録します。通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。「Bluetooth 設定」の「新しい接続の追加ウィザード」で、新しい接続の検出を行うと、その時点で通信可能なリモートデバイスがわかります。また、そのリモートデバイスが、どのようなサービス（Bluetooth での通信の種類）を実行できるのかを調べます。

### 1 「Bluetooth 設定」を起動する

### 2 [新しい接続] ボタン ( ) をクリックする

[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



## 「Bluetooth 設定」画面

「新しい接続の追加ウィザード」が完了すると、[Bluetooth 設定] 画面が表示されます。

検出されたリモートデバイスの接続アイコンが、接続用アイコンウィンドウに表示されます。



リモートデバイスが登録され、通信を行う準備ができました。

### 3 Bluetooth通信を接続／切断する

「Bluetooth 設定」に登録されたリモートデバイスは、Bluetooth プロファイルの種類によって、自動的に接続／切断されるものと、手動で接続／切断する必要があるものがあります。

詳しくは、『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を確認してください。

Bluetooth プロファイル	接続／切断方法
ダイヤルアップネットワーキング プロファイル (DUN)	COM 自動接続機能設定を有効にしている場合は、関連するアプリケーションを使用するときに、必要に応じて自動的にリモートデバイスに接続／切断されます。
FAX プロファイル (FAX)	
LAN アクセスプロファイル (LAP)	
シリアルポートプロファイル (SPP)	
ヒューマンインタフェースデバイス プロファイル (HID)	マウスを動かすなどの操作により、自動的に接続されます。ただし、パソコン側で一時的に切断した後の接続、リモートデバイスを他のパソコンと接続して、記憶されていたアドレスが更新された場合などは、手動で接続する必要があります。
ハードウェアケーブルリプレースメント プロファイル (HCRP)	手動接続／切断を行う必要はありません。アプリケーションから印刷を行うことで、自動的に印刷ができます。
ファイル転送プロファイル (FTP)	手動接続／切断を行う必要はありません。エクスプローラの右クリックメニューなどからファイル転送ができます。
オブジェクトプッシュ プロファイル (OPP)	手動接続／切断を行う必要はありません。エクスプローラの右クリックメニューなどから名刺交換ができます。
アドバンスオーディオディストリ ビューションプロファイル (A2DP)	スピーチレコグナイザー SR-1 (別売り) の電源を入れ、左シャトルプッシュスイッチの中央部分 [PLAY/PAUSE] ボタンを押すか、またはパソコンから手動接続してください。詳細は、スピーチレコグナイザー SR-1 の取扱説明書を参照してください。

Bluetooth プロファイル	接続／切断方法
ジェネリックオーディオ／ビデオ ディストリビューションプロファイル (GAVDP)	スピーチレコグナイザー SR-1 (別売り) の電源を入れ、左シャトルプッシュスイッチの中央部分 [PLAY/PAUSE] ボタンを押すか、またはパソコンから手動接続してください。詳細は、スピーチレコグナイザー SR-1 の取扱説明書を参照してください。
オーディオ／ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)	GAVDP で接続／切断すると、自動的に接続／切断されます。

ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)、サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)、サービスディスカバリープロトコル (SDP) は、基本プロファイルです。

▶ 参照 COM 自動接続機能設定

『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』

ここでは、手動による Bluetooth 接続／切断を行う方法を説明します。

## 接続方法

手動で Bluetooth 通信を接続するには、次の操作を行ってください。

- 1 接続するリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから [接続] をクリックする②

接続が確立すると、選択したリモートデバイスのアイコンが接続状態に変わります。





## 切断方法

手動で Bluetooth 通信をやめるには、次の操作を行ってください。

- 1 接続しているリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから **【切断】** をクリックする②



確認のメッセージが表示されます。

- 2 **【はい】 ボタン**をクリックする

接続が切断されると、選択したリモートデバイスのアイコンが切断状態に変わります。

## ヘルプの起動


### 【クイックスタートガイド】

『クイックスタートガイド』では、Bluetooth の基本的な使用方法について説明しています。

- 1 **【スタート】** → **【すべてのプログラム】** → **【TOSHIBA】** → **【Bluetooth】** → **【クイックスタートガイド】** をクリックする

### 【Bluetooth Toshiba Utility User's Guide】

『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』では、「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」について説明しています。

- 1 **【Bluetooth Manager】** を起動する
- 2 通知領域の **【Bluetooth Manager】** アイコン (  ) を右クリックし、表示されたメニューから **【ヘルプ】** をクリックする

**参照** → 「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」の問い合わせ先  
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

# 3 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

## お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

## 1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

Pentium M モデルでは、次の地域でも使用できます。  
アルゼンチン、ブラジル、メキシコ

(2003年10月現在)


海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

## 1 設定方法

### 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [Modem Region Select] をクリックする

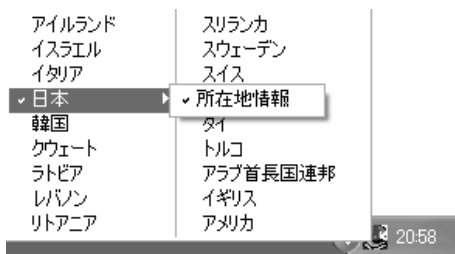
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン (  ) が通知領域に表示されます。



### 2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン ( ) をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



### 3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。


新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

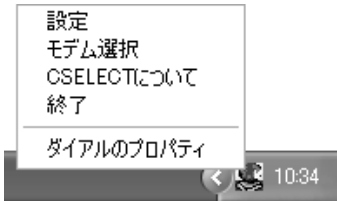
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

## 2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン (  ) を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



### 【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

### 【モデム選択】

COMポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

### 【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

## 4 章

# 周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

- 
- 1 周辺機器について 134
  - 2 PC カードを接続する 136
  - 3 USB 対応機器を接続する 139
  - 4 テレビを接続する 141
  - 5 外部ディスプレイを接続する 147
  - 6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 148
  - 7 その他の機器を接続する 150
  - 8 メモリを増設する 153

# 1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- PC カード
- スキャナ
- マウス（本製品では同梱）
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- モデム（本製品では内蔵）
- フロッピーディスクドライブ
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

 周辺機器の接続場所は「1章1各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

## お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

## 1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

### 1 ドライバをインストールする

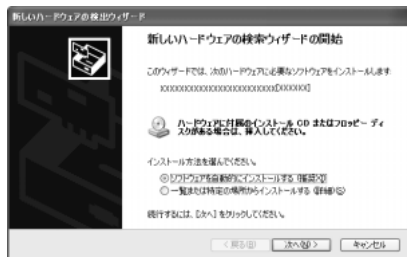
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

#### 【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



#### 【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

## 2 PC カードを接続する

目的に合わせた<sup>ピシー</sup>PCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI カード
- 無線 LAN カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

### 1 PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

スロット 1（上側）	TYPE II
スロット 0（下側）	TYPE II / III

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサクション）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサクションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

#### お願い

- ホットインサクションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

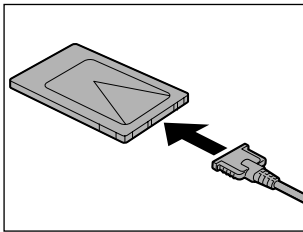


## 2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

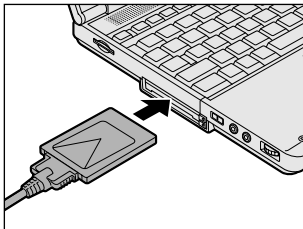
### 1 取り付け

#### 1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

#### 2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。



カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

### 2 取りはずし

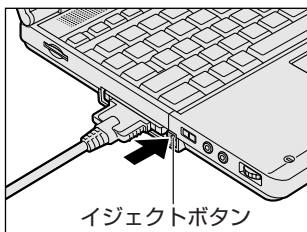
#### お願い

取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

## 1 PC カードの使用を停止する

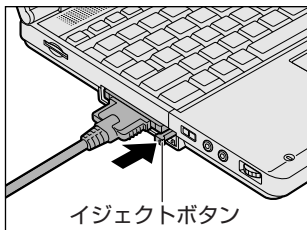
- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする

## 2 イジェクトボタンを押す



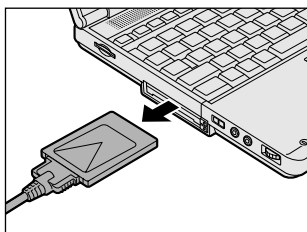
イジェクトボタンが出てきます。

## 3 もう 1 度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。  
カードが少し出てきます。

## 4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。  
故障するおそれがあります。  
熱くないことを確認してから行ってください。

## 5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

# 3 USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

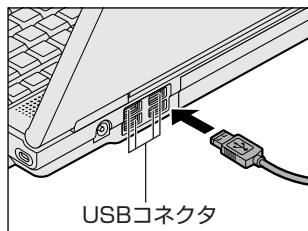
本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

## お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

## 1 取り付け

### 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

### 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む



この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

## 2 取りはずし

### お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

### 1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから「XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します」をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、「閉じる」ボタン (  ) をクリックする

### 2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

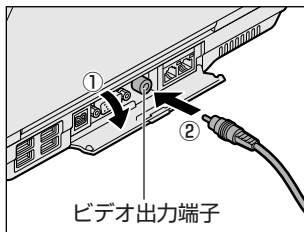
# 4 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

市販のビデオケーブルを使用してください。

## 1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む  
音声はパソコンのスピーカで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

## 2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

### お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間

### 【方法1 - [画面のプロパティ] で設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ ] をクリックする
- 2 [ 画面 ] をクリックする  
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

### 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

- \* 以降の手順は、使用しているモデルによって異なります。  
使用しているモデルの手順を参照してください。

## 【 Pentium M モデルの場合 】

### 1 [Intel(R) Extreme Graphics] タブで [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする

### 2 [デバイス] タブで表示する装置を選択する



画面左側の ✓ がついているアイコンが現在の表示装置です。  
画面左側で選択したい表示装置のアイコンをクリックしてください。  
表示装置ごとに、画面右側で詳細を設定できます。

- 内部液晶ディスプレイだけに表示  
[ノートブック] アイコンをクリックしてください。
- テレビだけに表示  
[テレビ] アイコンをクリックしてください。  
[ビデオ標準] では 10 種類のモードが表示されますが、次の 3 つのみ使用してください。
  - ・ NTSC-M (米国仕様の TV 受信機)
  - ・ NTSC-J (日本仕様の TV 受信機)
  - ・ PAL-B (ヨーロッパ仕様の TV 受信機)
- 外部ディスプレイだけに表示  
[PC モニタ] アイコンをクリックしてください。
- Clone 表示  
2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。  
① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリック


## ②表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイでClone表示	ノートブック	PC モニタ
内部液晶ディスプレイとテレビでClone表示	ノートブック	テレビ

## ● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。内部液晶ディスプレイと外部液晶ディスプレイまたはテレビの両方にクローン表示している場合、[画面のプロパティ] から拡張表示を設定できません。(Ctrl)+(Alt)+(F12)キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。

## ① [拡張デスクトップ] アイコンをクリック

[拡張デスクトップ] アイコンが表示されていない場合は、 ボタンをクリックしてください。

## ②表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PC モニタ
内部液晶ディスプレイとテレビで拡張表示	ノートブック	テレビ

## メモ

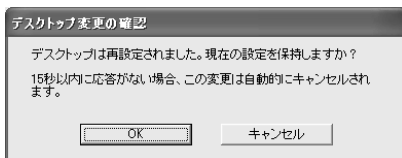
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイをClone表示または拡張表示に設定する場合、次の画面モードはサポートしていないので、選択しないでください。

## 【外部ディスプレイの設定】

解像度	外部ディスプレイのリフレッシュレート
2048 × 1536 32bpp	60 / 75Hz
1920 × 1440 32bpp	75 / 85Hz
1600 × 1200 32bpp	100Hz

### 3 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



### 4 [OK] ボタンをクリックする

### 5 [OK] ボタンをクリックする

### 6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

## 【 Pentium III モデルの場合 】

### 1 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする



表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD ..... 内部液晶ディスプレイに表示
  - CRT ..... CRT ディスプレイに表示
- [LCD] と [CRT] を有効にすると、同時表示されます。
- TV ..... テレビに表示

### 2 [OK] ボタンをクリックする

[警告] 画面が表示されます。

### 3 [OK] ボタンをクリックする

[警告] 画面が表示されます。

### 4 [OK] ボタンをクリックする

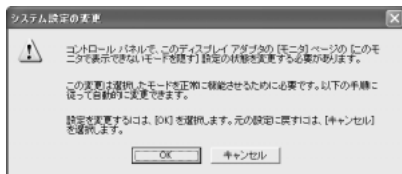
### 5 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする



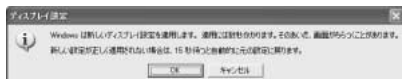
## 【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [[はい] ボタンをクリックしてください。

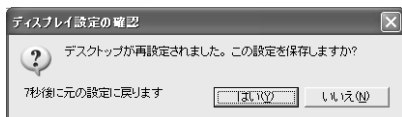
## ● [システム設定の変更] 画面



## ● [ディスプレイ設定] 画面



## ● [ディスプレイ設定の確認] 画面



## 【方法2 - (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを 3 秒以上押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。これは最初に (Fn) + (F5) キーを押したときのみ有効です。

## ● Pentium M モデルの場合




## ● Pentium III モデルの場合



- LCD ..... 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT ..... 内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT ..... 外部ディスプレイだけに表示  
外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。  
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV ..... 内部液晶ディスプレイとテレビに同時表示  
\* Pentium Mモデルのみ
- TV ..... テレビだけに表示  
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。  
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

Pentium Mモデルの場合、「方法1」で「拡張表示」に設定した場合は、**(Fn)+(F5)**キーで表示装置を切り替えられません。「方法1」の手順で表示装置を切り替えてください。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは「Windowsのログオフ」画面で「ログオフ」を選択して切り替えてください。「ユーザの切り替え」で切り替えた場合は、**(Fn)+(F5)**キーで表示装置を切り替えられません。

 **参照** ユーザアカウントの切り替え

『基本をマスター 4章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

### 3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

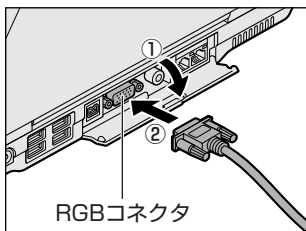
# 5 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

## 1 接続

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGB コネクタに差し込む②



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

## 2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

### 【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を確認してください。

▶ 参照 ▶ テレビ接続について「本章 4-2 テレビに表示する」

## 3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

▶ 参照 ▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

## 6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

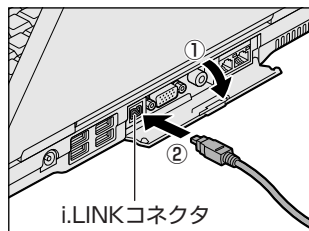
### お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

## 1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグを i.LINK コネクタに差し込む②



コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

## 2 取りはずし

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする

\* デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

## 3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き、ケーブルの一方のプラグを i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

# 7 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

## 1) マイクロホン

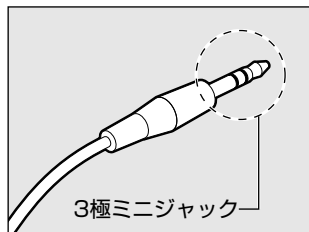
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

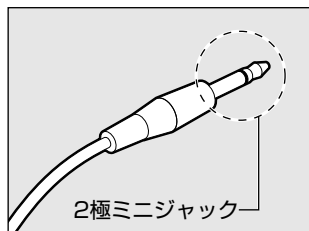
参照 → サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

### 1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

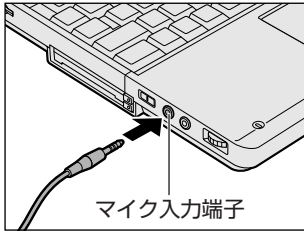
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 → 「LaLaVoice」について《サイバーサポート》

## 2 接続

### 1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

## 2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm  $\phi$  ステレオミニジャックタイプを使用してください。

### お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

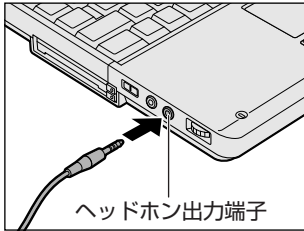
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

## 1 接続

### 1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。



# 8 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大1GBまでです。

## ⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

## ⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

## お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビーブ音）が鳴ります。スロットAがエラーの場合は「ピー・ピッ」と、スロットBがエラーの場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。また、2つのスロットがエラーの場合は、A→Bの順に「ピー・ピッ・ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

## 静電気について

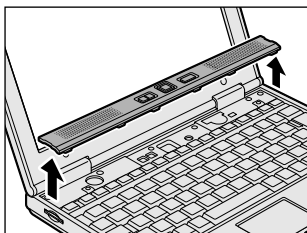
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

## 1 取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

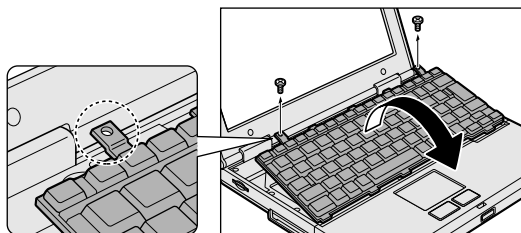
参照 ▶ バッテリーパックについて「5章 1-④ バッテリーパックを交換する」

- 4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす



キーボードホルダ両側にある切り欠き部に指をかけ、右側からゆっくりと慎重に引き上げます。

## 5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す

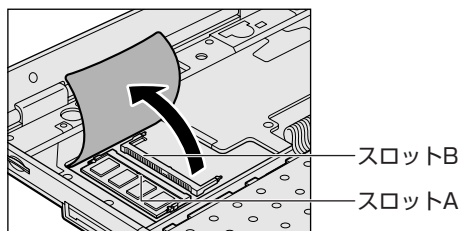


ネジが本体内部に入らないようにしてください。

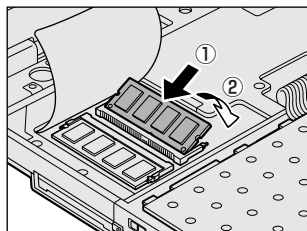
## お願い

- キーボードの裏には、接続ケーブルがあります。接続ケーブルは、はずしたり、傷つけたり、無理な力を加えないでください。断線や接触不良の原因となり、キー入力ができなくなるおそれがあります。
- キーボードをディスプレイに立てかけたりぶつけたりして、傷をつけないようにしてください。

## 6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる



## 7 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

## 8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す

### お願い

インシュレータは必ず元に戻してください。キーボードとパソコン内部が接触すると動作不良の原因となります。

## 9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

### 10 キーボードホルダを取り付ける

まずパソコン本体のキーボード側にキーボードホルダ前面のツメを挿し込み、キーボードホルダ後側と左右を押して取り付けます。

### 11 バッテリパックを取り付ける

**参照**▶ バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

**参照**▶ メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

## 2 取りはずし

### 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

### 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

### 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

**参照**▶ バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

### 4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす

### 5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す ネジが本体内部に入らないようにしてください。

### 6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる


### 7 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

- 8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す
- 9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる
- 10 キーボードホルダを取り付ける
- 11 バッテリパックを取り付ける

 参照 ▶ バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。


 参照 ▶ メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

### 3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

#### 【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

 参照 ▶ 「東芝 PC 診断ツール」について  
『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

メインメモリはビデオ RAM と共用のため、[基本情報の表示] で表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。



## 5章

# バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

- 
- 1 バッテリーについて 160
  - 2 省電力の設定をする 169
  - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 175

# 1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

また、標準バッテリーとあわせてセカンドバッテリーパック（別売り）を使用すると、より長い時間バッテリー駆動で使うことができます。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

## 危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS021)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

## 警告

- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。  
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

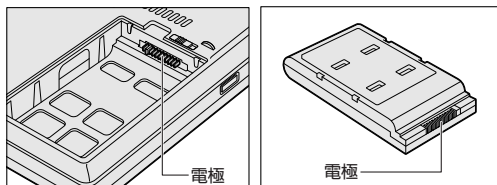
## 注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。  
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。



## お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

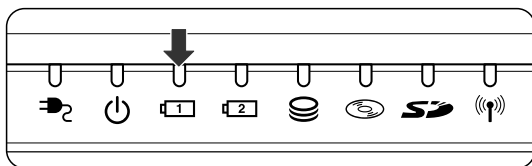



## 1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

## 1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。




Battery  LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"><li>・ バッテリーが接続されていない</li><li>・ AC アダプタが接続されていない</li><li>・ バッテリー異常</li></ul>

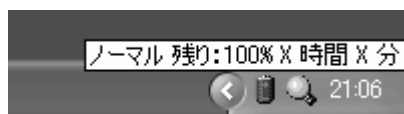
バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

 **参照** バッテリーの充電について「本節 ② バッテリーを充電する」


## 2 通知領域の [省電力] アイコンで確認する


通知領域の [省電力] アイコン (  ) の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。




 **参照** 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 **参照** 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

### 3 バッテリー充電量が減少したとき


電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する  
東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

### 時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

#### 【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が緑色に点灯)	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

## 2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

### お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

### 1 充電方法

#### 1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN への LED が緑色に点灯して Battery への LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

#### 2 Battery への LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery への LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN への LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

### メモ

パソコン本体を長時間で使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

### 【 充電完了までの時間 】

状態	電源 ON	電源 OFF
標準のバッテリーパック	約 3～12 時間	約 2.5 時間
セカンドバッテリーパック	約 2.5～9 時間	約 2.5 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

## 【使用できる時間】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

## ● Pentium M モデルの場合

測定法	JEITA 測定法 1.0
標準のバッテリーパック	約 5 時間
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 9.5 時間

## ● Pentium III モデルの場合

測定法	JEITA 測定法 1.0
標準のバッテリーパック	約 4.2 時間
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 9.0 時間

## 【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

## ● Pentium M モデルの場合

パソコン本体の状態	電源 OFF または休止状態	スタンバイ
標準のバッテリーパック	約 30 日	約 4 日
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 60 日	約 8 日

## ● Pentium III モデルの場合

パソコン本体の状態	電源 OFF または休止状態	スタンバイ
標準のバッテリーパック	約 60 日	約 5 日
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 120 日	約 10 日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。


## 2 バッテリーを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。  
その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

### 1 パソコン本体の電源を切る


### 2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順4へ進んでください。


### 3 5分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery  LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

### 4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。




### 5 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery  LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN  LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

## 【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく  
 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

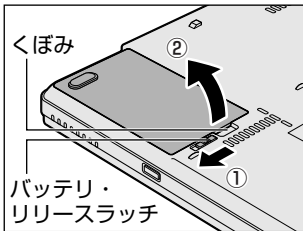
### 3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

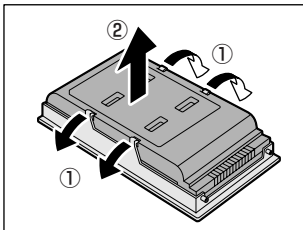
バッテリーパックの取り付け／取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

#### 1 取りはずし／取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 バッテリー・リリーススラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけてバッテリーカバーごとバッテリーパックを取りはずす②

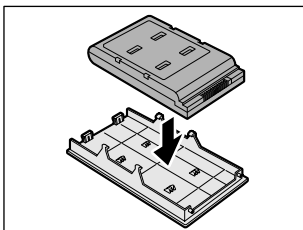


#### 5 バッテリーカバーからバッテリーパックを取り出す



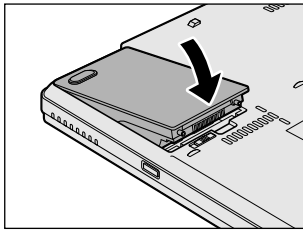
バッテリーカバーのツメを左右に広げ①、バッテリーパックを取りはずします②。

#### 6 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける



---

7 バッテリーパックをコネクタに斜めに挿入し、カチッという音がするまで静かに差し込む





## 2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

### 1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

#### 1 省電力ユーティリティの起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする  
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

#### 2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



## 【電源に接続】【バッテリーを使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] は AC アダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期設定状態では、[電源に接続] (AC アダプタを使用するとき) がこのモードに設定されます。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD 再生	性能と消費電力を両立して DVD の再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。
スーパーロングライフ*1	消費電力を再優先にして省電力制御を行います。

\*1 Pentium M モデルのみ表示されます。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

### 【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする  
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する


### 【省電力モードの削除】

① 削除する省電力モードをクリックする

② [削除] ボタンをクリックする


[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている省電力モードを削除することはできません。

### 【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする (  ) と現在の省電力モードを示す省電力アイコン (  ) が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

### 【タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する】

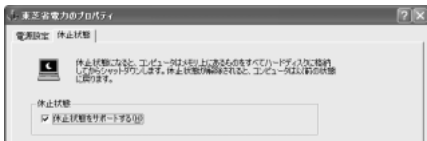
[タスクバーに Intel SpeedStep(R) Technology の状態を表示する] をチェックする (  ) と現在の CPU 周波数の状態を示すアイコン (  ) が通知領域に表示されます。

CPU 周波数アイコンをクリックすると、CPU 周波数を変更することができます。

## 3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。



▶ 参照 → 休止状態について「本項 4- [動作] タブ」

## 4 省電力モードの詳細設定

### 1 [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



画面は Pentium M モデルの表示例です。

## 【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

## 【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

## 【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

### お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
  - ・ 誤った使いかたをしたとき
  - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
  - ・ バッテリーが消耗したとき
  - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
  - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
  - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

### メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

### 【何もしない】

何も動作しないように設定します。

### 【入力を求める】

〔コンピュータの電源を切る〕画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

### 【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

### 【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（〔東芝省電力〕 - 〔休止状態〕タブの〔休止状態をサポートする〕がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

### 【電源オフ】

Windowsを終了して電源を切ります。

〔スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める〕をチェックする（）と、Windowsのパスワードを設定している場合には、復帰するときにWindowsパスワードの入力が必要になります。

### 【アラーム】タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

〔アラーム〕タブは〔電源設定〕タブで〔バッテリーを使用中〕に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

---

## 【デバイスの設定】タブ

---

Pentium M モデルでのみ表示されます。

省電力モードで使用するときに、デバイスを有効／無効にする設定を行います。

## 5 複数のユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。





参照 複数のユーザで使用する場合

『基本をマスター 4 章 Windows のユーザ設定』

---

## ヘルプの起動方法

---

- 1 「東芝省電力ユーティリティ」を起動後、画面右上の  をクリックする  
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

# 3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

## お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  - ・ スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
  - ・ スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒以上押しっぱなし電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

## 1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

## 1 スタンバイの実行方法

### 【方法1ー [スタート] メニューから実行する】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする

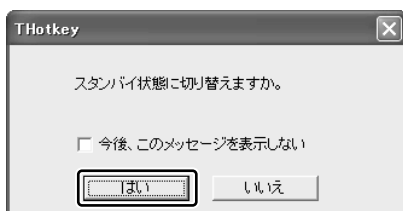


メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

### 【方法2ー (Fn) + (F3) キーを使う】

- 1 (Fn) + (F3) キーを押す
- 2 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック (  ) して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する



## 2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

### 1 休止状態の実行方法

#### 【方法 1ー [スタート] メニューから実行する】

##### 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

##### 2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



##### 3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

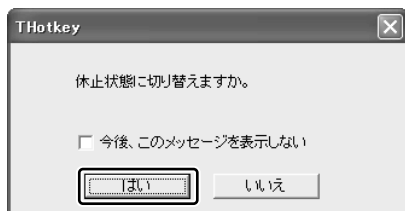
## 【方法2ー (Fn) + (F4) キーを使う】

### 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
  - ② [東芝省電力] をクリックする
  - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
  - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

### 2 (Fn) + (F4) キーを押す

### 3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック (  ) して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

Power  LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

## 3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る (電源オフ)、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

### 1 電源スイッチを押す

#### 1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする

- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する  
[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

## 2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

## 2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

### 1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する  
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

### 2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。



## 6章

# アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

- 
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 182
  - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 183

# 1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。



## お願い

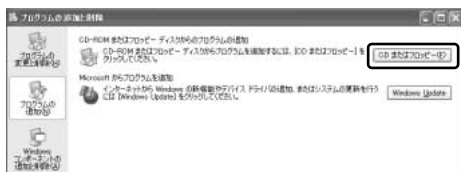
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

## 1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[  プログラムの追加と削除 ] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン (  ) をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

## 2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCD-ROMから、再インストールして使用することができます。

参照 → 再インストールについて

『困ったときは 4章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。


アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

### メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

### 1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。





## 7章

# システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

- 
- 1 システム環境の変更とは 186
  - 2 東芝HWセットアップを使う 187
    - 3 パスワードセキュリティ 194
    - 4 BIOSセットアップを使う 198

# 1 システム環境の変更とは

---

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」などがあります。

 **参照** 東芝省電力ユーティリティについて「5章 2 省電力の設定をする」



通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。  
BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

# 2 東芝 HW セットアップを使う

「東芝 HW セットアップ」を使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。

パスワード、パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

## 1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  プリンタとその他のハードウェア ] をクリックする
- 2 [  東芝 HW セットアップ ] をクリックする

## 2 使用方法

### ■ [全般] タブ ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。



### 【標準設定】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の [パスワード] タブ以外のタブの項目をご購入時の設定状態に戻します。

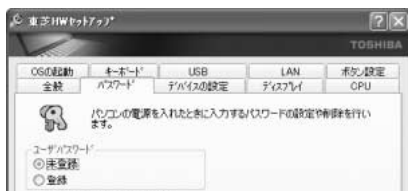
### 【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

## ■ [パスワード] タブ ■

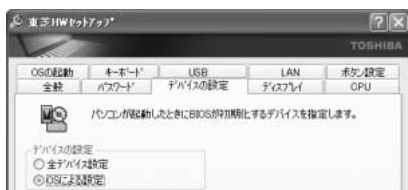
パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。

➡ 参照 パスワードについて「本章 3 パスワードセキュリティ」



## ■ [デバイスの設定] タブ ■

パソコンが起動したときに BIOS セットアップが初期化するデバイスを指定します。



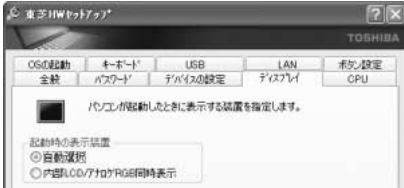
## 【 デバイスの設定 】

- 全デバイス設定  
システムが起動したときに BIOS が初期化するデバイスを指定します。
- OSによる設定（標準値）  
OSをロードするのに必要なデバイスのみ初期化します。それ以外のデバイスはOSが初期化します。通常はこちらに設定します。

### ■ [ディスプレイ] タブ ■

Pentium M モデルの場合は、起動時のWindows ロゴを表示する表示装置を選択します。Windows 起動後は、前回シャットダウンする前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回シャットダウンする前に接続していた表示装置が存在しない場合は、内部液晶ディスプレイに表示されます。

Pentium III モデルの場合は、表示装置を選択します。



### 【 起動時の表示装置 】

#### ● 自動選択 (標準値)

システム起動時に、外部ディスプレイが接続されている場合は、外部ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部液晶ディスプレイだけに表示します。

#### ● 内部 LCD/ アナログ RGB 同時表示

システム起動時に、外部ディスプレイ (アナログ RGB) が接続されている場合は、内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの両方に表示します。

▶ 参照 → 外部ディスプレイの接続「4章 5 外部ディスプレイを接続する」

Windows 起動後は、前回電源を切る前の表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前の表示装置が存在しない場合は内部液晶ディスプレイに表示されます。

### ■ [CPU] タブ ■

CPU に関する設定します。



## 【 CPU 周波数の設定 】

- **ダイナミック切替モード（標準値）**  
CPUの消費電力・周波数切り替え機能を有効にし、東芝省電力ユーティリティでCPU周波数を設定します。
- **常時高速モード**  
CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常にCPUを加速した状態にします。
- **常時標準モード**  
CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、CPUを通常の状態で使用します。

## ■ 【OSの起動】 タブ ■

OSの起動に関する設定をします。



## 【 OS の起動 】

システムを起動する装置の優先順位を設定します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

## 【 HDD の起動 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- **Built-in HDD → PC Card（標準値）**  
パソコン本体のハードディスク → PC Cardタイプのハードディスクの順で起動します。
- **PC Card → Built-in HDD**  
PC Cardタイプのハードディスク → パソコン本体のハードディスクの順で起動します。

## 【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）  
PXE プロトコルに設定します。
- RPL  
RPL プロトコルに設定します。

## ■ [キーボード] タブ ■

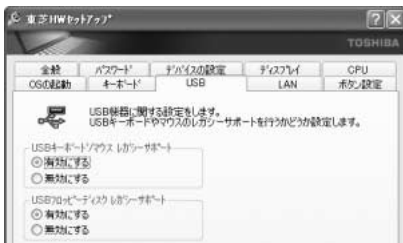


## 【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

## ■ [USB] タブ ■

USB 対応機器に関する設定をします。



## 【USB キーボード/マウス レガシーサポート】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）  
レガシーサポートを行います。ドライバなしでUSB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。
- 無効にする  
レガシーサポートを行いません。

## 【 USB フロッピーディスク レガシーサポート 】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

### ● 有効にする（標準値）

レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。

### ● 無効にする

レガシーサポートを行いません。

## ■ [LAN] タブ ■

LAN 機能に関する設定をします。



## 【 LAN のウェイクアップ 】

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

## 【 内蔵 LAN 】

内蔵 LAN を使用するかどうかを設定します。

## ■ [ボタン設定] タブ ■

電源スイッチのランプに関する設定を行います。





## 【パワーボタンランプ】

電源スイッチのランプの光りかたのパターンを設定します。

状態	電源 ON	スタンバイ	電源オフ/休止状態
無効	常に消灯		
モード1 (標準値)	青色に点灯	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
モード2	青色に点灯	緑色とオレンジ色が交互に点滅	緑色と青色が交互に点滅
モード3	緑色→オレンジ色→青色の順に点滅	黄色に点灯	オレンジ色に点灯



なお、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずすと、いったん設定がモード1 (標準値)に戻ります。その後パソコン本体の電源を入れると、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずす前の設定に戻ります。

## 【サウンドロゴ】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- 有効にする (標準値)  
音を鳴らします。
- 無効にする  
音を鳴らしません。

## ヘルプの起動方法

- 1 「東芝HWセットアップ」を起動後、画面右上の  をクリックする  
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

# 3 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを登録できます。パスワードには大きく分けて次の2種類があります。

- Windows のログオンパスワード

Windows にログオンするとき

インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

▶ 参照 インスタントセキュリティ機能

「1章 3-③- (Fn)キーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード

電源を入れたとき、スタンバイ状態、休止状態から復帰するとき

ここでは、「東芝HWセットアップ」を使ってユーザパスワードを登録する方法について説明します。

キーフロッピーディスク\*1を作成したい場合は、BIOSセットアップで登録してください。

\*1 ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。

▶ 参照 キーフロッピーディスクの作成

「本章 4-③-4- キーフロッピーディスクの作成」

## メモ

パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

## 1 ユーザパスワード

### 1 登録

ユーザパスワードの登録は、「東芝HWセットアップ」を使用することをおすすめします。キーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOSセットアップで登録してください。

1 「東芝HWセットアップ」を起動する

2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする

### 3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードは10文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「\*\*\*\* (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部 (半角)	- ! @ < > ; : , . (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全角文字 (2バイト文字)</li> <li>・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ (全角/半角)、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など</li> <li>・ 記号の一部 (半角) 【例】   (バーチカルライン)、_ (アンダーバー)、¥ (エン) など</li> </ul>	

### 4 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

### 5 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

## 2 削除

### 1 「東芝HWセットアップ」を起動する

### 2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする

### 3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

### 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

手順3でパスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度手順1から削除の操作を行ってください。

### 3 変更



ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

## 2 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが登録されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

### 1 登録したとおりにパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、ユーザパスワードを登録したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

## ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したユーザパスワードの解除と再登録ができます。また、再登録したユーザパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

キーフロッピーディスクの作成方法と使いかたについては、「本章 4-③-4 PASSWORD」を確認してください。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

## 3 スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでは設定できません。

### メモ

パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

### 起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする  
詳しくは、「README.HTM」を参照してください。

### 「README.HTM」の起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

# 4 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

## BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows 上の「東芝HW セットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。BIOS セットアップとWindows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

## 1 起動と終了

### 1 起動

#### 1 (Esc)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

**参照** ユーザパスワードについて「本章 3 パスワードセキュリティ」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

#### 2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

## 2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

### 1 (Fn) + (→) キーを押す

本製品では、(Fn) + (→) が (End) キーの機能を持ちます。  
画面にメッセージが表示されます。

### 2 (Y) キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。  
変更した項目によっては、再起動されます。

## 途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

### 1 (Esc) キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

### 2 (Y) キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

## 2 画面と基本操作

BIOS セットアップには次の 2 つの画面があります。

### 【 Pentium M モデルの場合 】

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X. XX

①	<b>MEMORY</b> Total = XXXXXXKB	<b>BOOT PRIORITY</b> Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN HDD Priority = Built-in HDD → PC Card Network Boot Protocol = PXE	⑤
②	<b>SYSTEM DATE/TIME</b> Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX	<b>DISPLAY</b> Power On Display = Auto-Selected LCD Display Stretch = Enabled TV Type = NTSC(JAPAN)	⑥
③	<b>BATTERY</b> Battery Save Mode = Full Power	<b>OTHERS</b> Power-up Mode = Boot CPU Cache = Enabled Level 2 Cache = Enabled Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable	⑦
④	<b>PASSWORD</b> Not Registered	Auto Power On = Disabled Sound Logo = Enabled Power Button Lamp = Mode 1	

↑↓←→: Select items   **Space,BkSp**: Change values   **PgDn,PgUp**: Change pages  
**Esc**: Exit without saving   **Home**: Set default values   **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X. XX

⑧	<b>CONFIGURATION</b> Device Config. = Setup by OS	<b>PC CARD</b> Controller Mode = Auto-Selected	⑪
⑨	<b>DRIVES I/O</b> Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14) CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)	<b>PERIPHERAL</b> Internal Pointing Device = Enabled Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)	⑫
⑩	<b>PCI BUS</b> PCI BUS = IRQ10, IRQ11	<b>LEGACY EMULATION</b> USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled USB-FDD Legacy Emulation = Enabled	⑬
		<b>PCI LAN</b> Built-in LAN = Enabled	⑭

↑↓←→: Select items   **Space,BkSp**: Change values   **PgDn,PgUp**: Change pages  
**Esc**: Exit without saving   **Home**: Set default values   **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。



## 【 Pentium III モデルの場合 】

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X.XX

① MEMORY = XXXXXXKB

SYSTEM DATE/TIME  
 ② Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX  
 Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX

BATTERY  
 ③ Battery Save Mode = Full Power

PASSWORD  
 ④ Not Registered

DISPLAY  
 ⑥ Power On Display = Auto-Selected  
 LCD Display Stretch = Disabled  
 TV Type = NTSC

BOOT PRIORITY  
 Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN  
 HDD Priority = Built-in HDD → PC Card  
 Network Boot Protocol = PXE ⑤

OTHERS  
 Power-up Mode = Boot  
 CPU Cache = Enabled  
 Level 2 Cache = Enabled  
 Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable ⑦  
 Auto Power On = Disabled  
 Sound Logo = Enabled  
 Power Button Lamp = Mode 1

↑↓←→: Select items Space,BkSp : Change values PgDn,PgUp : Change pages  
 Esc : Exit without saving Home : Set default values End : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X.XX

CONFIGURATION  
 ⑧ Device Config. = Setup by OS

DRIVES I/O  
 ⑨ Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)  
 CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)

PCI BUS  
 ⑩ PCI BUS = IRQ11

PC CARD  
 Controller Mode = Auto-Selected ⑪

PERIPHERAL  
 Internal Pointing Device = Enabled ⑫  
 Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)

LEGACY EMULATION  
 USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled ⑬  
 USB-FDD Legacy Emulation = Enabled

PCI LAN  
 Built-in LAN = Enabled ⑭

↑↓←→: Select items Space,BkSp : Change values PgDn,PgUp : Change pages  
 Esc : Exit without saving Home : Set default values End : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

参照 → 設定項目の詳細について「本節 ③ 設定項目」

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	$\uparrow$ 、 $\downarrow$ 、 $\leftarrow$ 、 $\rightarrow$ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	$\text{Space}$ または $\text{BackSpace}$
画面を切り替える	$\text{Fn} + \downarrow$ または $\text{Fn} + \uparrow$ 本製品では、 $\text{Fn} + \downarrow$ が $\text{PgDn}$ キー、 $\text{Fn} + \uparrow$ が $\text{PgUp}$ キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	$\text{Fn} + \leftarrow$ 本製品では、 $\text{Fn} + \leftarrow$ が $\text{Home}$ キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode ●Write Policy

### 3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。  
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

#### 1 MEMORY—メモリ容量を表示する

##### 【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

#### 2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は $\text{Space}$ または $\text{BackSpace}$ キーで行います。  
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、 $\uparrow$  $\downarrow$ キーで行います。

##### 【 Date 】

日付を設定します。

##### 【 Time 】

時刻を設定します。

### 3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

#### 【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)	●User Setting (設定例)	●Low Power
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright* <sup>1</sup> Super-Bright* <sup>2</sup>	LCD Brightness = Super-Bright	LCD Brightness = Semi-Bright* <sup>1</sup> Bright* <sup>2</sup>
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注 1) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。

(注 2) LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

- \* 1 バッテリー駆動時
- \* 2 AC アダプタ接続時

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

#### ● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High ..... 処理速度を高速に設定する
- ・ Low ..... 処理速度を低速に設定する

#### ● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled ..... 電力消費を低減する
- ・ Disabled ..... 電力消費を低減しない

---

- **Display Auto Off (表示自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled ..... 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

- **HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)**

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- **System Auto Off (システム自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Disabled ..... 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- **LCD Brightness (LCD 輝度)**

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright ..... 低輝度に設定する

- ・ Bright ..... 高輝度に設定する

- ・ Super-Bright ..... 最高輝度に設定する

- **Cooling Method (CPU 熱制御方式)**

CPUの熱を冷ます方式を選択します。

CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... CPU温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。

- ・ Performance ..... CPUが高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。

- ・ Battery Optimized ..... CPUが高温になったときに、CPUの処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

## 4 PASSWORD—ユーザパスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

### 【 Not Registered 】

ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます（標準値）。

### 【 Registered 】

ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

## ■ ユーザパスワードの登録 ■

ユーザパスワードの登録は「東芝 HW セットアップ」で行うことを推奨します。

参照 → 東芝 HW セットアップでのパスワード設定「本章 3-①-1 登録」

## ■ キーフロッピーディスクの作成 ■

キーフロッピーディスクとは、ユーザパスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。BIOS セットアップで作成してください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DD（720KB）または2HD（1.44MB）フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

### 1 BIOS セットアップを起動する

### 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。

参照 → ユーザパスワードの削除方法「本項 - ユーザパスワードの削除」

### 3 パスワードを入力する

パスワードは 10 文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は、「東芝 HW セットアップ」の場合と同様です。

▶ 参照 東芝 HW セットアップからのパスワード登録  
「本章 2-2- [パスワード] タブ」

パスワードは 1 文字ごとに \* が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

### 4 (Enter) キーを押す

1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

### 5 2 回目のパスワードを入力する

パスワードは手順 3 と同じパスワードを入力してください。

### 6 (Enter) キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

### 7 ユーザパスワードの登録が終了したら、(Fn) + (→) キーを押す

本製品では、(Fn) + (→) が (End) キーの機能を持ちます。

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)  
The changes you made will cause the system to reboot.  
Insert password service disk if necessary.

### 8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして (Y) キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに (Y) キーを押します。

BIOS セットアップの画面に戻るには (N) キーを押します。

手順 9 はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

## 9 キーフロッピーディスクを作成する

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

- ① セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は①キーを、2DDの場合は②キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

- ② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する



参照 キーフロッピーディスクの使いかた

「本項 - ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

### ■ ユーザパスワードの削除 ■

「東芝HWセットアップ」からの削除については「本章 3-①-2 削除」を確認してください。

#### 1 BIOS セットアップを起動する

#### 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、

(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

#### 3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに\*が表示されます。

#### 4 (Enter)キーを押す

パスワードが削除されます。

入力したパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ビーブ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

## ■ ユーザパスワードを忘れてしまった場合 ■

キーフロッピーディスクを使用して、登録したユーザパスワードの解除と再登録ができます。また、再登録したユーザパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**(Enter)**キーを押す  
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

- 2 パスワードを再登録する場合は、**(Y)**キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 キーフロッピーディスクの作成」の手順2以降を行ってください。再登録後、システムが再起動します。

パスワードを再登録しない場合は、**(N)**キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk,then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

## ■ ユーザパスワードの変更 ■

ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

- ▶ 参照 ユーザパスワードの削除と登録について  
「本項- ユーザパスワードの削除」、「本章 3-①-1 登録」



## 5 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

### 【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
  - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
  - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
  - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
  - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
  - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

### 【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → PC Card (標準値) ... パソコン本体のハードディスク → PC Card  
タイプのハードディスクの順で起動する
- ・ PC Card → Built-in HDD ..... PC Card タイプのハードディスク → パン  
コン本体のハードディスクの順で起動する

### 【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE (標準値) ..... PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL ..... RPL プロトコルに設定する

## 6 DISPLAY—起動時の表示の設定をする

Pentium M モデルの場合は、起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。Windows 起動後は、前回シャットダウンする前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回シャットダウンする前に接続していた表示装置が存在しない場合は、内部液晶ディスプレイに表示されます。

Pentium III モデルの場合は、表示装置を選択します。

## 【 Power On Display 】

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは内部液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + Analog RGB ..... 内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

## 【 LCD Display Stretch 】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Disabled ..... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する
- ・ Enabled (標準値) ... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する

## 【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- Pentium M モデルの場合
  - ・ NTSC (JAPAN) (標準値) .. 日本仕様の TV 受信機
  - ・ NTSC (US) ..... 米国仕様の TV 受信機
  - ・ PAL ..... ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- Pentium III モデルの場合
  - ・ NTSC ..... 日本と米国仕様の TV 受信機
  - ・ PAL ..... ヨーロッパ仕様の TV 受信機

## 7 OTHERS—その他の設定をする

### 【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) ..... レジューム機能を無効にする
- ・ Resume ..... レジューム機能を有効にする

### 【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled ..... キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する

Pentium III モデルの場合、「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。項目は次のとおりです。

#### ● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back ..... 書き込み方式を「Write-back」に設定する  
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through ..... 書き込み方式を「Write-through」に設定する  
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

#### 【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled ..... 2次キャッシュを使用しない

#### 【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

- ・ Dynamically Switchable (標準値) ..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- ・ Always High ..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- ・ Always Low ..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低周波数で動作します。

#### 【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XP を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windows のタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
- ・ Enabled ..... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

---

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能（Auto Power On）を設定してシステムを起動させた場合、「Password =」と表示されます。パスワードセキュリティで登録したユーザパスワードを入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

 参照 ユーザパスワードの登録「本章 3 パスワードセキュリティ」

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は (Space) または (BackSpace) キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは (↑) (↓) キーで行います。

- Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled ..... 時間を設定しない

- Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled ..... 月日を設定しない

- Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能は PC カードタイプのモデムでは使用できません。

- ・ Disabled (標準値) ... リングインジケータ機能を使用しない

- ・ Enabled ..... リングインジケータ機能を使用する

- Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

⑭ 「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled ..... Wake-up on LAN 機能を使用する

- ・ Disabled (標準値) ... Wake-up on LAN 機能を使用しない

## 【 Sound Logo 】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... 音を鳴らす

- ・ Disabled ..... 音を鳴らさない

## 【 Power Button Lamp 】

電源スイッチのランプの光りかたのパターンを設定します。

状態	電源 ON	スタンバイ	電源オフ/休止状態
Mode 1 (標準値)	青色に点灯	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Mode 2	青色に点灯	緑色とオレンジ色が交互に点滅	緑色と青色が交互に点滅
Mode 3	緑色→オレンジ色→青色の順に点滅	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Off	常に消灯		

なお、AC アダプタとバッテリーパックを取りはずすと、いったん設定が Mode 1 (標準値) に戻ります。その後パソコン本体の電源を入れると、AC アダプタとバッテリーパックを取りはずす前の設定に戻ります。

## 【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入/切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Enabled ..... パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... パネルスイッチ機能を使用しない


## 8 CONFIGURATION

### 【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する  
それ以外の装置は OS が初期化します。  
この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices ..... すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内の [Controller Mode] の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

 参照 「PC CARD」について「本項 11 PC CARD」

## 9 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM、PC カードの設定

### 【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

### 【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

### 【 PC Card 】

PC カードタイプ (TYPE II または III) のハードディスク (別売り) からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できる PC カードのタイプ (TYPE II または III) のハードディスク (別売り) を PC カードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

## 10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

### 【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

## 11 PC CARD—PCカードのモードを選択する

### 【 Controller Mode 】

PC カードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) ... プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ CardBus/16-bit ..... Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible ..... Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない 16-bit PC カードを使用する場合に選択します。

## 12 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

### 【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ..... 使用する
- ・ Disabled ..... 使用しない

#### メモ

[Disabled] に設定すると、Windows 上からタッチパッドのON／OFFはできません。

### 【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) .... 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE ..... Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する  
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

## 13 LEGACY EMULATION

### 【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う  
ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled ..... レガシーサポートを行わない

---

## 【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値)... レガシーサポートを行う  
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用  
できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こ  
ちらに設定します。
- ・ Disabled ..... レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、  
⑤「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM  
→ LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

## 14 PCI LAN

### 【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値)... 有効にする
- ・ Disabled ..... 無効にする



# 付録

本製品などのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

- 
- 1 本製品の仕様 218
  - 2 技術基準適合について 226
  - 3 無線LANについて 240
  - 4 Bluetoothについて 249

# 1 本製品の仕様

## 1 製品仕様

機種		dynabook C9シリーズ	
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照	
メモリ	ROM	512KB（フラッシュROM）、ACPI 1.0b、APM1.2、Plug and Play 1.0a	
	RAM	東芝PC診断ツールを参照	
	ビデオRAM	Pentium Mモデル： 最大64MB（システムメモリと共用）*1 Pentium IIIモデル： 16MB（システムメモリと共用）	
表示機能	表示装置	12.1型TFT方式カラー液晶ディスプレイ	
	グラフィック表示	横1024 x 縦768 1画面	
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー（文字キー、制御キーの合計）	
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵	
補助記憶装置	SDメモリカードスロット	1個装備	
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵	
	ドライブ		DVDマルチドライブ *2 1台内蔵 CD-ROM 読み出し：最大24倍速 CD-R 書き込み：最大16倍速 CD-RW（マルチスピード） 書き換え：最大4倍速 High-Speed CD-RW 書き換え：最大8倍速 DVD-ROM 読み出し：最大8倍速 DVD-R 書き込み：最大2倍速 DVD-RW 書き換え：等倍速 DVD-RAM 書き換え：2倍速 8cm、12cmのディスク対応 マルチセッション

補助記憶装置	ドライブ	マルチドライブ *3 1台内蔵 CD-ROM 読み出し：最大24倍速 CD-R 書き込み：最大24倍速 CD-RW（マルチスピード） 書き換え：最大4倍速 High-Speed CD-RW 書き換え：最大10倍速 Ultra Speed CD-RW 書き換え：最大24倍速 DVD-ROM 読み出し：最大8倍速 8cm、12cmのディスク対応 マルチセッション
インタフェース	RGB	1個装備
	USB	4個装備 USB2.0準拠 *4
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)
	PCカード	2個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 2、またはTYPE III x 1) CardBus対応
	サウンド	マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備 内蔵マイク装備
	ビデオ	ビデオ出力 1個装備 (RC Aジャック)
通信機能	モデム	1個装備
	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	無線LAN	1個装備 IEEE802.11b準拠
	Bluetooth通信機能 *5	1個装備 Bluetooth Specification Ver.1.1準拠
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V-240V～ (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 10.8V/4,000mAh

最大消費電力	約60W
使用環境条件	温度：5℃～35℃ 湿度：20%～80%Rh
外形寸法（突起部除く）	289（幅）x 238（奥行）x 35.5（高さ）mm
質量	DVDマルチドライブモデル：約2.2kg マルチドライブモデル：約2.1kg

- \* 1 システムメモリが256MB以上の場合はビデオRAMの容量は最大64MBですが、システムメモリを128MBまで減らすとビデオRAMの容量は最大32MBになります。
- \* 2 DVDマルチドライブモデルのみ。
- \* 3 マルチドライブモデルのみ。
- \* 4 従来のUSB1.1規格と完全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍（理論値）の高速データ転送の可能なHighSpeedモードをサポートします。  
ただし、すべてのUSB1.1 / 2.0対応機器の動作を保証するものではありません。
- \* 5 Bluetoothモデルのみ。

## 【東芝PC診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

- 1 **【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【TOSHIBA】 → 【ユーティリティ】 → 【PC診断ツール】 をクリックする**
- 2 **【基本情報の表示】 ボタンをクリックする**

### メモ

「東芝PC診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし【CPU】の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

## 【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。その他の地域で使用する場合は、当該国・地域法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は100Vです。必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

- \* 取得規格は、電気用品安全法です。

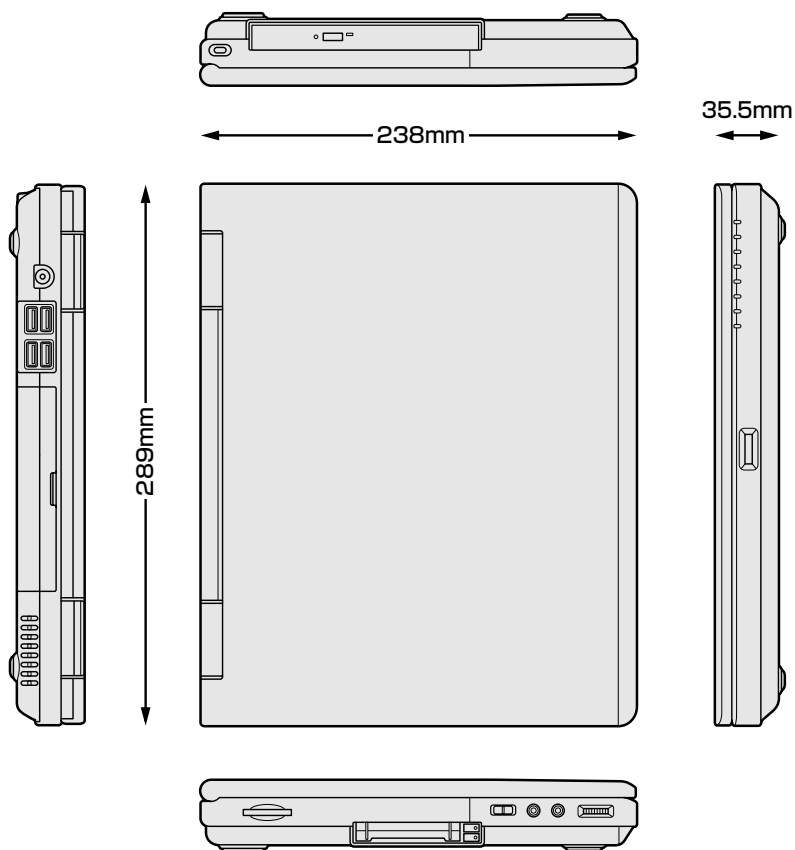
## 【ACアダプタの仕様】

入力：AC100-240V～、1.3A-0.7A、50-60Hz

出力：DC15V 4A

## 2 外形寸法図

\* 数値は突起部を含みません。



### 3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 → 表示可能色数の詳細について「1章 5-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

#### 【 Pentium M モデルの場合 】

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字			
0*,1*		40 x 25字	8 x 14		
2*,3*		80 x 25字			
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16		
2+,3+		80 x 25字			
4,5	VGA	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6	グラフィックス	640 x 200ドット		2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+			8(9) x 16		
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット			
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10				16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12				16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85 /100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		
—		1400×1050ドット*1	—		
—		1600×1200ドット*1	—		
—		1920×1440ドット*1	—		
—		2048×1536ドット*1	—		
—		640×480ドット	—	64K/64K	60/75/85 /100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		
—		1400×1050ドット*1	—		
—		1600×1200ドット*1	—		
—		1920×1440ドット*1	—		
—		2048×1536ドット*1	—		
—		640×480ドット	—	16M/16M	60/75/85 /100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×1024ドット*1	—		
—	1400×1050ドット*1	—			
—	1600×1200ドット*1	—			
—	1920×1440ドット*1	—			
—	2048×1536ドット*1	—			

\* 1 : LCD に表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

## 【 Pentium III モデルの場合 】

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)	
0,1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70	
2,3		80×25字				
0*,1*		40×25字	8×14			
2*,3*		80×25字				
0+,1+		40×25字	8(9)×16			
2+,3+		80×25字				
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K		
6		640×200ドット		2/256K		
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ		
7+			8(9)×16			
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K		
E		640×200ドット				
F		640×350ドット	8×14	モノクロ		
10				16/256K		
11		640×480ドット	8×16	2/256K	60	
12				16/256K		
13		320×200ドット	8×8	256/256K	70	
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85	
—		800×600ドット	—			
—		1024×768ドット	—			
—		1280×1024ドット*1	—			
—		1600×1200ドット*1	—	60		
—		64K/64K	640×480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—			800×600ドット	—		
—			1024×768ドット	—		
—			1280×1024ドット*1	—		
—			1600×1200ドット*1	—		
—			60			
—		16M/16M	640×480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—			800×600ドット	—		
—			1024×768ドット	—		
—	60/75					

\*1：LCDに表示する場合は、実際の画面（1024×768）内に、仮想スクリーン表示します。  
注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

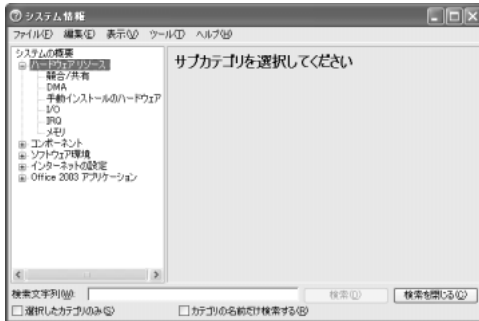


## 4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア/ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ           : [メモリ]  
 I/Oポートマップ       : [I/O]  
 IRQ使用リソース       : [IRQ]  
 DMA使用リソース       : [DMA]

## 2 技術基準適合について

### 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

### 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

**参照** → 『困ったときは 3 章 Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

### 高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

### 国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



**参照** → 省電力設定について 「5 章 2 省電力の設定をする」

## FCC information

Product name : dynabook C9 series

Model number : PP412

### FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

**WARNING** : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

### FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

### Contact

**Address** : TOSHIBA America Information Systems, Inc.  
9740 Irvine Boulevard  
Irvine, California 92618-1697

**Telephone** : (949) 583-3000

---

**TOSHIBA**

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PP412\* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

### モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



### ●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

Pentium M モデルでは、次の地域でも使用できます。  
アルゼンチン、ブラジル、メキシコ

(2003 年 10 月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

### ●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

\* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

参照 → 関連情報は《サイバーサポート》

---

## Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

## Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

## Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.  
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

## Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

## Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

## If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

---

## Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

## Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.



## Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 **NOTICE** : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

**Caution:** Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

**NOTICE** : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

---

# Notes for Users in Australia and New Zealand

## Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

## Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
  - ATB0 (CCITT operation)
  - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  - ATS0=0 (not auto answer)
  - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
  - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
  - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

---

**NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM**

**General conditions**

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

# Panasonic DVD-RAM ドライブ UJ-811B (DVD マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

## ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。  
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。  
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

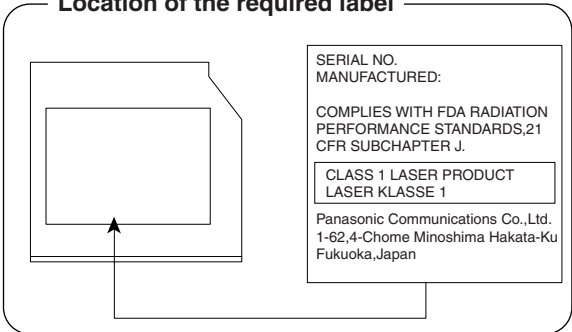
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

<b>CAUTION</b>	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
<b>ATTENTION</b>	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
<b>VORSICHT</b>	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG. WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
<b>ADVARSEL</b>	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
<b>ADVARSEL</b>	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
<b>VARNING</b>	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
<b>VARO !</b>	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

付録

### Location of the required label



# Panasonic CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA750 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

## ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。  
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。  
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

### CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

### ATTENTION

RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.  
EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

### VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

### ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

### ADVARSEL

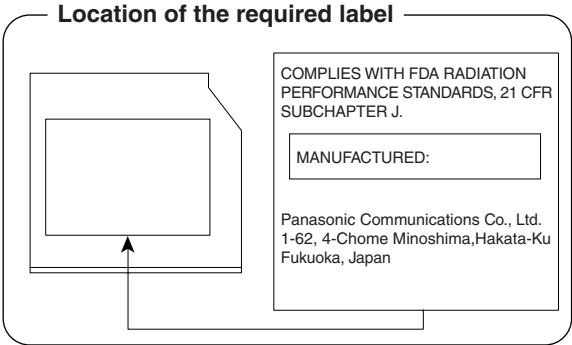
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

### WARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

### VARO!

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.



# 3 無線 LAN について

## 1 ネットワーキング特性

互換製品	無線LANのIEEE802.11規格に準拠する製品 (DSSS) Wi-Fi Alliance認定のWi-Fiロゴ取得製品	
ネットワークOS	Microsoft Windows Networking	
ホストOS	NDIS5.1 Miniport Driver	
メディアアクセスプロトコル	CSMA/CA (Collision Avoidance) with Acknowledgment (ACK)	
データレート	High	11Mb/s
	Medium	5.5Mb/s
	Standard	2Mb/s
	Low	1Mb/s

## 2 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	2.4GHz (2400-2483.5 MHz)
変調方式	直接拡散方式 CCK (転送レート High、Medium) DQPSK (転送レート Standard) DBPSK (転送レート Low)

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

### メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。



### 3 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。各地域で適用される無線規制については、「本節 6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

#### 【無線 IEEE802.11 チャンネルセット】

周波数帯域	2400-2483.5 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
<b>10</b>	<b>2457</b> *1
11	2462

\* 1 購入時に設定されているチャンネルです。

無線 LAN をインストールする場合、チャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。ステーションはチャンネル 1 から 11 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- "ピア・ツー・ピア" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されます。

## 4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

### 【1. ステッカー】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。

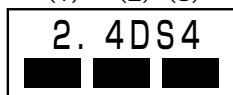
この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

### 【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。

(1) (2) (3)



(4)

- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

### 【3. 東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

## 5 機器認定表示について

本製品には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

### 【 Pentium M モデル 】

無線設備名：WM3B2100

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 03NYDA0041,  
03WYBA0036

### 【 Pentium III モデル 】

無線設備名：MPCI3A-20/R

財団法人 電気通信端末機器審査協会 認証番号 D01-1128JP  
財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1088

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

## 6 お客様に対するお知らせ

### 【 無線製品の相互運用性 】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品／東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers(米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B)（無線 LAN 標準規格(版数 B)）
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity（Wi-Fi）認証

### 〈ご注意〉

- Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

---

## 【健康への影響】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品／東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品／東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

## 【規制に関する情報】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品／東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本装置は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

## ● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L 'utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

This device has been designed to operate with an antenna having a maximum gain of 4.8dB. Antenna having a higher gain is strictly prohibited per regulations of Industry Canada. The required antenna impedance is 50 ohms.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.

To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit être utilisé à l'intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d'émission) est installé à l'extérieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

**【In the case of a Pentium M model】**

IC:248H-DPA3272U

**【In the case of a Pentium III model】**

IC:248H-DPA3171U

## ● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/ Belgique:	For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed. For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
----------------------	--

---

Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

---

L'utilisation en extérieur est autorisé sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz).

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à l'extérieur de bâtiments, une licence de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

---

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

---

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

---

France: Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.

---

Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France.

Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telecom.fr>) pour la procédure à suivre.

---

Italia: License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed

---

E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno.

Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

---

Nederland License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

---

Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

## ● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation of the devices in a Wireless LAN System is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference that may cause undesired operation.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter or TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

### **Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.**

The Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter or TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card will be installed with one of two types of antennas. The both of antenna types, when installed are located at the upper edge of the LCD screen.

For both antennas, the radiated output power of the Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter or TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter or TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm.

The antenna(s) used for this transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website [www.hc-sc.gc.ca/rpb](http://www.hc-sc.gc.ca/rpb).

**[In the case of a Pentium M model]**

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6UPA3272WL, CJ6UPA3232BT.

**[In the case of a Pentium III model]**

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6UPA3232BT.

---

## ● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement. The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.



# 4 Bluetooth について

\* Bluetooth モデルのみ

## 1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.1.1
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	最大通信速度	約720kbps (非対称型通信時) 約430kbps (対称型通信時)
	出力*1	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度*1	-70dBm
	通信距離	見通し10m*2
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

\* 1 アンテナの効率は含まれません。

\* 2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

## 2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

### メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

### 3 Bluetooth™ 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

#### 【ステッカー】

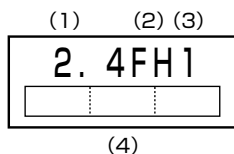
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。


この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

#### 【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。  
(2) FH : 変調方式が FH-SS 方式であることを示す。  
(3) 1 : 想定される与干渉距離が 10m 以下であることを示す。  
(4)  : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

#### 【東芝 PC ダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

## 4 機器認定表示について

本製品には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときには無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYTF2CS

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1305

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

## 5 お客様に対するお知らせ

### 【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.1
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

### お願い

- 本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。
- ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.1 仕様に準拠しております。  
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

---

(3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

### 【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

## Regulatory statements

### General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

### European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

### Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

IC:248H-DPA3232B

### Caution

#### FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

---

## Caution

### Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

**【In the case of a Pentium M model】**

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6UPA3272WL, CJ6UPA3232BT.

**【In the case of a Pentium III model】**

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6UPA3232BT.

## Taiwan



Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

# 総合さくいん

(記号)	.NET Passport .....	『基本をマスター』 120
	 キー .....	『応用ガイド』 22
	 キーを使ったショートカットキー .....	『応用ガイド』 27
(A)	ACアダプタの仕様 .....	『応用ガイド』 20
	Alt キー .....	『応用ガイド』 22
	Arrow Mode LED .....	『応用ガイド』 23, 24
(B)	BackSpace キー .....	『応用ガイド』 23
	BATTERY .....	『応用ガイド』 203
	Battery LED .....	『応用ガイド』 21
	BCC .....	『基本をマスター』 82
	BeatJam .....	『応用ガイド』 70, 74
	BIOS セットアップ .....	『応用ガイド』 198
	Bluetooth Manager .....	『応用ガイド』 124
	Bluetooth SIG .....	『応用ガイド』 120
	Bluetooth Stack for Windows by Toshiba .....	『応用ガイド』 122
	Bluetooth 機能を使う .....	『応用ガイド』 119
	Bluetooth 設定 .....	『応用ガイド』 125
	Bluetooth について .....	『応用ガイド』 249
	BOOT PRIORITY .....	『応用ガイド』 209
(C)	Caps Lock LED .....	『応用ガイド』 22, 24
	Caps Lock 英数キー .....	『応用ガイド』 22
	CC .....	『基本をマスター』 82
	CD-ROM LED .....	『応用ガイド』 21
	CD のセット .....	『基本をマスター』 16
	CD の取り扱い .....	『応用ガイド』 59
	CD の取り出し .....	『基本をマスター』 17
	ConfigFree .....	『応用ガイド』 115
	CONFIGURATION .....	『応用ガイド』 213
	Ctrl キー .....	『応用ガイド』 22
	CyberSupport for TOSHIBA .....	『困ったときは』 14
(D)	DC IN LED .....	『応用ガイド』 21
	Del キー .....	『応用ガイド』 23
	Disk LED .....	『応用ガイド』 21
	DISPLAY .....	『応用ガイド』 209

	DMA 使用リソース .....	『応用ガイド』 225
	Drag'n Drop CD + DVD .....	『応用ガイド』 81
	.....	『困ったときは』 37
	DRIVES I/O .....	『応用ガイド』 214
	DVD-Video を観る .....	『応用ガイド』 86
	DVD のセット .....	『基本をマスター』 16
	DVD の取り扱い .....	『応用ガイド』 59
	DVD の取り出し .....	『基本をマスター』 17
	dynabook.com (サポート情報) .....	『困ったときは』 20
<b>(E)</b>	Enter キー .....	『応用ガイド』 23
	Esc キー .....	『応用ガイド』 22
<b>(F)</b>	Fn キー .....	『応用ガイド』 23
	Fn キーを使った特殊機能キー .....	『応用ガイド』 25
<b>(H)</b>	Home Style+ .....	『基本をマスター』 105
	HTML 形式 .....	『基本をマスター』 79
<b>(I)</b>	i.LINK コネクタ .....	『応用ガイド』 18
	i.LINK 対応機器の取り付け .....	『応用ガイド』 149
	i.LINK 対応機器の取りはずし .....	『応用ガイド』 149
	i.LINK 対応機器を接続する .....	『応用ガイド』 148
	i.LINK によるネットワーク接続 .....	『応用ガイド』 149
	I/O ポートマップ .....	『応用ガイド』 225
	IEEE1394 コネクタ .....	『応用ガイド』 18
	IEEE1394 対応機器の取り付け .....	『応用ガイド』 149
	IEEE1394 対応機器の取りはずし .....	『応用ガイド』 149
	IEEE1394 対応機器を接続する .....	『応用ガイド』 148
	IME パッド .....	『基本をマスター』 34
	Ins キー .....	『応用ガイド』 23
	Internet Explorer .....	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer 画面 .....	『基本をマスター』 59
	Internet Explorer の起動 .....	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer の終了 .....	『基本をマスター』 60
	InterVideo WinDVD .....	『応用ガイド』 86
	IRQ 使用リソース .....	『応用ガイド』 225



<b>(L)</b>	LAN ケーブルの接続 ..... 『応用ガイド』 102
	LAN コネクタ ..... 『応用ガイド』 18
	LAN コネクタに関するインジケータ ..... 『応用ガイド』 103
	LAN へ接続する ..... 『応用ガイド』 102
	LEGACY EMULATION ..... 『応用ガイド』 215
<b>(M)</b>	MEMORY ..... 『応用ガイド』 202
	Microsoft IME スタンダードのプロパティ ..... 『基本をマスター』 26
<b>(N)</b>	Norton AntiVirus ..... 『困ったときは』 33
	Norton Internet Security 2002 ..... 『困ったときは』 32
	Numeric Mode LED ..... 『応用ガイド』 23, 24
<b>(O)</b>	OTHERS ..... 『応用ガイド』 210
	Outlook 2003 ..... 『基本をマスター』 98
	Outlook 2003 画面 ..... 『基本をマスター』 99
	Outlook 2003 の起動 ..... 『基本をマスター』 98
	Outlook 2003 の終了 ..... 『基本をマスター』 104
	Outlook 2003 のバックアップ ..... 『困ったときは』 47
	Outlook Express ..... 『基本をマスター』 74
	Outlook Express 画面 ..... 『基本をマスター』 75
	Outlook Express の起動 ..... 『基本をマスター』 74
	Outlook Express の終了 ..... 『基本をマスター』 76
Outlook Express のバックアップ ..... 『困ったときは』 44	
<b>(P)</b>	PadTouch 機能 ..... 『応用ガイド』 34
	PASSWORD ..... 『応用ガイド』 205
	Pause キー ..... 『応用ガイド』 23
	PC CARD ..... 『応用ガイド』 214
	PCI BUS ..... 『応用ガイド』 214
	PCI LAN ..... 『応用ガイド』 216
	PC カードスロット ..... 『応用ガイド』 16
	PC カードの取り付け ..... 『応用ガイド』 137
	PC カードの取りはずし ..... 『応用ガイド』 137
	PC カードを接続する ..... 『応用ガイド』 136
	PERIPHERAL ..... 『応用ガイド』 215
	Power LED ..... 『応用ガイド』 21
	PrtSc キー ..... 『応用ガイド』 23

- (R)** RGB コネクタ ..... 『応用ガイド』 18
- (S)** SD Card LED ..... 『応用ガイド』 21
  - SDMI ..... 『応用ガイド』 60
  - SD カードスロット ..... 『応用ガイド』 16
  - SD メモリカード ..... 『応用ガイド』 60
  - SD メモリカードのセット ..... 『応用ガイド』 61
  - SD メモリカードの取り扱い ..... 『応用ガイド』 65
  - SD メモリカードの取り出し ..... 『応用ガイド』 61
  - Shift キー ..... 『応用ガイド』 22, 23
  - Space キー ..... 『応用ガイド』 22
  - SYSTEM DATE/TIME ..... 『応用ガイド』 202
- (T)** Tab キー ..... 『応用ガイド』 22
- (U)** USB コネクタ ..... 『応用ガイド』 18
  - USB 対応機器の取り付け ..... 『応用ガイド』 139
  - USB 対応機器の取りはずし ..... 『応用ガイド』 140
  - USB 対応機器を接続する ..... 『応用ガイド』 139
- (W)** Windows Media Player ..... 『応用ガイド』 70, 77
  - Windows のネットワーク設定 ..... 『応用ガイド』 103
  - WinDVD Creator 2 Platinum ..... 『応用ガイド』 95
- (ア)** 宛先 ..... 『基本をマスター』 82
  - アドレス ..... 『基本をマスター』 61
  - アドレス帳のバックアップ (Outlook Express) ..... 『困ったときは』 45
  - アドレス帳を使う (Outlook Express) ..... 『基本をマスター』 94
  - アプリケーション DVD-ROM ..... 『困ったときは』 71, 77
  - アプリケーションキー ..... 『応用ガイド』 23
  - アプリケーションを起動する ..... 『基本をマスター』 36
  - アプリケーションを削除する ..... 『応用ガイド』 183
  - アプリケーションを終了する ..... 『基本をマスター』 36
  - アプリケーションを追加する ..... 『応用ガイド』 182
  - アロー状態 ..... 『応用ガイド』 24
  - アンインストール ..... 『応用ガイド』 183
- (イ)** イジェクトホール ..... 『基本をマスター』 18
  - イジェクトボタン ..... 『基本をマスター』 18

	インスタントセキュリティ機能 .....	『応用ガイド』 25
	インストール .....	『応用ガイド』 182
	インターネット接続を終了する .....	『基本をマスター』 56
	インターネットに接続する .....	『基本をマスター』 55
	インターネットボタン .....	『応用ガイド』 17
	インターネットへの接続について .....	『基本をマスター』 46
	インフラストラクチャネットワーク .....	『応用ガイド』 108
<b>(ウ)</b>	ウィンドウ .....	『基本をマスター』 19
	ウィンドウズキー .....	『応用ガイド』 22
	ウィンドウの大きさを変える .....	『基本をマスター』 20
	ウィンドウを移動する .....	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを閉じる .....	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを開く .....	『基本をマスター』 20
<b>(エ)</b>	英数字を入力する .....	『基本をマスター』 30
	映像データをパソコンに取り込む .....	『応用ガイド』 95
	映像データの編集 .....	『応用ガイド』 96
	液晶ディスプレイの取り扱い .....	『応用ガイド』 44
<b>(オ)</b>	オーバーレイキー .....	『応用ガイド』 23
	大文字ロック状態 .....	『応用ガイド』 24
	[お気に入り] からホームページを表示する .....	『基本をマスター』 65
	[お気に入り] に登録する .....	『基本をマスター』 63
	[お気に入り] のバックアップ .....	『困ったときは』 43
	[お気に入り] を整理する .....	『基本をマスター』 66
	オプションの設定 (Outlook 2003) .....	『基本をマスター』 101
	オプションの設定 (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 77
	オリジナルDVDを作る .....	『応用ガイド』 95
	オリジナル音楽CDを作る .....	『応用ガイド』 81
	音楽CDを聴く .....	『応用ガイド』 70
	音楽ファイルを聴く .....	『応用ガイド』 74
<b>(カ)</b>	海外でインターネットに接続する .....	『応用ガイド』 130
	外形寸法図 .....	『応用ガイド』 221
	回線切換器 .....	『応用ガイド』 130
	解像度を変更する .....	『応用ガイド』 38
	外部ディスプレイを接続する .....	『応用ガイド』 147

	書き込み可能状態.....	『応用ガイド』 62
	書き込み禁止状態.....	『応用ガイド』 62
	カタカナ／ひらがなキー .....	『応用ガイド』 23
	カタカナを入力する .....	『基本をマスター』 28
	型番 .....	『応用ガイド』 19
	カテゴリ .....	『応用ガイド』 102
	かな入力 .....	『基本をマスター』 25
	漢字を入力する .....	『基本をマスター』 27
<b>(キ)</b>	キーシフトインジケータ .....	『応用ガイド』 24
	キーボード .....	『応用ガイド』 16
	キーボードの取り扱い.....	『応用ガイド』 28
	記号を入力する .....	『基本をマスター』 29
	休止状態 .....	『応用ガイド』 177
<b>(ク)</b>	クリック (タッチパッド) .....	『基本をマスター』 9
	.....	『応用ガイド』 31
	クリック (マウス).....	『基本をマスター』 13
	くるくる壁紙チェンジャー .....	『応用ガイド』 39
<b>(コ)</b>	コントロールパネル .....	『困ったときは』 22
	ごみ箱 .....	『基本をマスター』 42
<b>(サ)</b>	再インストール .....	『困ったときは』 77
	再起動 .....	『困ったときは』 25
	最小化 .....	『基本をマスター』 22
	[最小化] ボタン .....	『基本をマスター』 19
	再セットアップ .....	『困ったときは』 70
	最大化 .....	『基本をマスター』 22
	[最大化] ボタン .....	『基本をマスター』 19
	サイバーサポート .....	『困ったときは』 14
	サイバーサポートボタン .....	『応用ガイド』 17
	サウンド機能 .....	『応用ガイド』 46
<b>(シ)</b>	システムインジケータ .....	『応用ガイド』 16, 21
	システム環境の変更 .....	『応用ガイド』 186
	知っておきたいマナー .....	『基本をマスター』 106
	受信したメールを見る (Outlook 2003) .....	『基本をマスター』 103
	受信したメールを見る (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 87

	使用できる CD .....	『応用ガイド』 51
	使用できる DVD .....	『応用ガイド』 53
	使用できるメディアと対応するアプリケーション .....	『応用ガイド』 49
	省電力モード .....	『応用ガイド』 170
	署名を入れる (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 83
<b>(ス)</b>	数字ロック状態 .....	『応用ガイド』 24
	スクロール (タッチパッド) .....	『基本をマスター』 10
	スクロール (マウス) .....	『基本をマスター』 14
	スクロールバー .....	『基本をマスター』 19
	スタンバイ .....	『応用ガイド』 175
	スピーカ .....	『応用ガイド』 16
<b>(セ)</b>	静電気について .....	『応用ガイド』 154
	製品仕様 .....	『応用ガイド』 218
	セカンドバッテリー LED .....	『応用ガイド』 21
	セカンドバッテリー接続コネクタ .....	『応用ガイド』 19
	セキュリティロック .....	『応用ガイド』 68
	セキュリティロック・スロット .....	『応用ガイド』 18
<b>(ソ)</b>	操作メニュー .....	『基本をマスター』 19
	増設メモリの取り付け .....	『応用ガイド』 154
	増設メモリの取りはずし .....	『応用ガイド』 156
<b>(タ)</b>	タイトルバー .....	『基本をマスター』 19
	タッチパッド .....	『基本をマスター』 8
	.....	『応用ガイド』 16
	タッピング .....	『応用ガイド』 31
	ダブルクリック (タッチパッド) .....	『基本をマスター』 9
	.....	『応用ガイド』 31
	ダブルクリック (マウス) .....	『基本をマスター』 13
<b>(ツ)</b>	ツールバー .....	『基本をマスター』 19
	通知領域 .....	『基本をマスター』 22
	通風孔 .....	『応用ガイド』 18
<b>(テ)</b>	ディスクトレイ LED .....	『基本をマスター』 18
	ディスプレイ .....	『応用ガイド』 16, 37
	ディスプレイ開閉ラッチ .....	『応用ガイド』 16

	テキスト形式 .....	『基本をマスター』 79
	デジカメ Walker .....	『応用ガイド』 92
	デジタルカメラの写真を編集 / 整理する .....	『応用ガイド』 92
	テレビに表示する .....	『応用ガイド』 141
	テレビを接続する .....	『応用ガイド』 141
	電源コードの仕様 .....	『応用ガイド』 20
	電源コードの取り扱い .....	『応用ガイド』 20
	電源コネクタ .....	『応用ガイド』 18
	電源スイッチ .....	『応用ガイド』 17
	電源スイッチについて .....	『応用ガイド』 17
	添付ファイルを開く (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 88
	電話回線を接続する .....	『基本をマスター』 48
<b>(ト)</b>	東芝 HW セットアップ .....	『応用ガイド』 187
	東芝 PC 診断ツール .....	『応用ガイド』 220
	.....	『困ったときは』 27
	東芝 SD メモリカードフォーマット .....	『応用ガイド』 63
	東芝コントロール .....	『応用ガイド』 66
	東芝省電力ユーティリティ .....	『応用ガイド』 169
	特殊機能キー .....	『応用ガイド』 28
	時計用バッテリー .....	『応用ガイド』 163
	[閉じる] ボタン .....	『基本をマスター』 19
	ドライブ .....	『応用ガイド』 18, 48
	ドラッグアンドドロップ (タッチパッド) .....	『基本をマスター』 10
	.....	『応用ガイド』 31
	ドラッグアンドドロップ (マウス) .....	『基本をマスター』 14
<b>(ナ)</b>	内蔵マイク .....	『応用ガイド』 16
	内蔵モデム .....	『応用ガイド』 130
	内蔵モデム用地域選択ユーティリティ .....	『応用ガイド』 130
	ナチュラルインプット .....	『基本をマスター』 25
<b>(ニ)</b>	日本語入力システム MS-IME を起動する .....	『基本をマスター』 25
	入力に関する制御キー .....	『基本をマスター』 32
<b>(ハ)</b>	ハードウェアリソース .....	『応用ガイド』 225
	ハードディスクドライブ .....	『応用ガイド』 45

パスワードの削除.....	『基本をマスター』 112
.....	『応用ガイド』 195
パスワードの設定.....	『基本をマスター』 110
パスワードの登録.....	『応用ガイド』 194
パスワードの入力.....	『基本をマスター』 111
パスワードの変更.....	『基本をマスター』 112
.....	『応用ガイド』 196
パスワードを忘れたときのために.....	『基本をマスター』 113
パスワードを忘れてしまった場合.....	『応用ガイド』 196
パソコンの設定.....	『基本をマスター』 53
パソコン本体の取り扱い.....	『応用ガイド』 20
バックアップ.....	『困ったときは』 36
バッテリー.....	『応用ガイド』 160
バッテリー駆動での使用時間.....	『応用ガイド』 165
バッテリー充電量.....	『応用ガイド』 161
バッテリーの充電完了までの時間.....	『応用ガイド』 164
バッテリーの充電方法.....	『応用ガイド』 164
バッテリーの充電保持時間.....	『応用ガイド』 165
バッテリーパック.....	『応用ガイド』 19
バッテリーパックの交換方法.....	『応用ガイド』 167
バッテリーを長持ちさせるには.....	『応用ガイド』 166
パネルスイッチ機能.....	『応用ガイド』 179
半/全キー.....	『応用ガイド』 22
<b>(ヒ)</b> ピア・ツー・ピアワークグループ.....	『応用ガイド』 107
左ボタン（タッチパッド）.....	『基本をマスター』 8
.....	『応用ガイド』 16
左ボタン（マウス）.....	『基本をマスター』 11
ビデオケーブルの取り付け.....	『応用ガイド』 141
ビデオケーブルの取りはずし.....	『応用ガイド』 146
ビデオ出力端子.....	『応用ガイド』 18
ビデオモード.....	『応用ガイド』 222
表示可能色数.....	『応用ガイド』 37
ひらがなを入力する.....	『基本をマスター』 27
<b>(フ)</b> ファイル.....	『基本をマスター』 37
ファイルシステム.....	『応用ガイド』 56

ファイルの圧縮方法 .....	『基本をマスター』 107
ファイルの解凍方法 .....	『基本をマスター』 107
ファイルのコピー .....	『基本をマスター』 40
ファイルの作成 .....	『基本をマスター』 38
ファイルの名前を変更する .....	『基本をマスター』 40
ファイルを削除する .....	『基本をマスター』 42
ファンクションキー .....	『応用ガイド』 22
フォーマット (DVD-RAM) .....	『応用ガイド』 55
フォーマット (SD メモリカード) .....	『応用ガイド』 63
フォルダ .....	『基本をマスター』 37
フォルダのコピー .....	『基本をマスター』 40
フォルダの作成 .....	『基本をマスター』 38
フォルダの名前を変更する .....	『基本をマスター』 40
フォルダを削除する .....	『基本をマスター』 42
複数のユーザで使用する .....	『基本をマスター』 114
ブロードバンドについて .....	『基本をマスター』 47
プロバイダと契約する .....	『基本をマスター』 51
文書を保存する .....	『基本をマスター』 30
プラグアンドプレイ .....	『応用ガイド』 135
分岐アダプタ .....	『応用ガイド』 130

<b>(へ)</b> ヘッドホン .....	『応用ガイド』 151
ヘッドホン出力端子 .....	『応用ガイド』 16, 152
ヘルプの起動 (日本語入力システム MS-IME) .....	『基本をマスター』 35
ヘルプの起動方法 (Outlook 2003) .....	『基本をマスター』 105
変換キー .....	『応用ガイド』 23
変換し直す .....	『基本をマスター』 34
変換の区切りを変える .....	『基本をマスター』 33

<b>(ホ)</b> ホームページの画像を壁紙に設定する .....	『基本をマスター』 69
ホームページの画像を保存する .....	『基本をマスター』 69
ホームページの検索 .....	『基本をマスター』 62
ホームページの表示 .....	『基本をマスター』 61
ホームページを保存する .....	『基本をマスター』 68
ホイール (タッチパッド) .....	『基本をマスター』 10
ホイール (マウス) .....	『基本をマスター』 11
ポインタ .....	『基本をマスター』 8



	ポインタを動かす (タッチパッド) .....	『基本をマスター』 9
	ポインタを動かす (マウス) .....	『基本をマスター』 13
	ボリュームコントロール .....	『応用ガイド』 46
	ボリュームダイヤル .....	『応用ガイド』 16, 46
	本製品の仕様 .....	『応用ガイド』 218
<b>(マ)</b>	マイク入力端子 .....	『応用ガイド』 16, 151
	マイクロホン .....	『応用ガイド』 150
	マウス .....	『基本をマスター』 11
<b>(ミ)</b>	右クリック (タッチパッド) .....	『基本をマスター』 10
	右クリック (マウス) .....	『基本をマスター』 13
	右ボタン (タッチパッド) .....	『基本をマスター』 8
	.....	『応用ガイド』 16
	右ボタン (マウス) .....	『基本をマスター』 11
<b>(ム)</b>	無線 LAN .....	『応用ガイド』 104
	無線 LAN について .....	『応用ガイド』 240
	無線 LAN の種類 .....	『応用ガイド』 105
	無線 LAN を使う .....	『応用ガイド』 112
	無変換キー .....	『応用ガイド』 22
<b>(メ)</b>	メールにファイルを添付する (Outlook Express) ..	『基本をマスター』 84
	メールボタン .....	『応用ガイド』 17
	メールを検索する (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 97
	メールを削除する (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 92
	メールを作成する (Outlook 2003) .....	『基本をマスター』 102
	メールを作成する (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 81
	メールを受信する (Outlook 2003) .....	『基本をマスター』 103
	メールを受信する (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 87
	メールを整理する (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 93
	メールを送信する (Outlook 2003) .....	『基本をマスター』 103
	メールを送信する (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 85
	メールを転送する (Outlook 2003) .....	『基本をマスター』 104
	メールを転送する (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 91
	メールを返信する (Outlook 2003) .....	『基本をマスター』 104
	メールを返信する (Outlook Express) .....	『基本をマスター』 90

	メニューバー .....	『基本をマスター』 19
	メモ帳 .....	『基本をマスター』 24
	メモリマップ .....	『応用ガイド』 225
	メモリ容量の確認 .....	『応用ガイド』 157
	メモリを増設する .....	『応用ガイド』 153
<b>(モ)</b>	文字キー .....	『基本をマスター』 23
	文字化け .....	『基本をマスター』 79
	モジュージャック .....	『応用ガイド』 18
	文字を削除する .....	『基本をマスター』 33
	[元に戻る (縮小)] ボタン .....	『基本をマスター』 19
<b>(ヤ)</b>	矢印キー .....	『応用ガイド』 23
<b>(ユ)</b>	ユーザアカウントの設定を変更する .....	『基本をマスター』 117
	ユーザアカウントを切り替える .....	『基本をマスター』 115
	ユーザアカウントを追加する .....	『基本をマスター』 114
<b>(ヨ)</b>	読みかたがわからない文字を入力する .....	『基本をマスター』 34
<b>(ラ)</b>	ライトプロテクトタブ .....	『応用ガイド』 62
<b>(リ)</b>	リカバリ DVD-ROM .....	『困ったときは』 71
	リリース情報 .....	『応用ガイド』 9
	履歴 .....	『基本をマスター』 71
<b>(ロ)</b>	ローマ字入力 .....	『基本をマスター』 25
	ローマ字入力一覧表 .....	『基本をマスター』 122
	録音レベルの調整 .....	『応用ガイド』 47
<b>(ワ)</b>	ワイヤレスコミュニケーションLED .....	『応用ガイド』 21
	ワイヤレスコミュニケーションスイッチ .....	『応用ガイド』 16
	ワンタッチボタン .....	『応用ガイド』 66